

第2章

センター研究 2 (2年計画・2年次)

個別最適な学びと協働的な学びの
一体的な充実による授業改善



目 次

I 研究の概要	
1 研究の背景	41
2 研究のねらい	41
3 研究の仮説	42
4 研究の内容	42
II 研究の実際	
1 本研究における言葉の捉え方	43
2 研究推進に当たって	44
3 演習の進め方と実際	45
4 授業改善を図るための実践プラン	47
5 「学習場面例」と「ICT一覧表」	48
6 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善（手引） の作成	50
III 研究のまとめ	
1 研究の成果	51
2 今後に向けて	54
■ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善（手引）	55
■ 引用・参考文献	79

I 研究の概要

1 研究の背景

平成29・30・31年改訂学習指導要領では、児童生徒の資質・能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されています。このことを踏まえ、当センターでは、平成30年度から視点を変えながら授業改善に関する研究に取り組んでいます（図1）。



図1 授業改善に関するこれまでの研究

これまで、授業づくりの理念やヒント集、資質・能力を活用・発揮できるアイデアなどを提案してきましたが、令和4年度からは、令和3年1月26日付、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(以下「令和3年答申」と略)に着目し、研究を進めることとしました。

「令和3年答申」では、学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であると述べられています。また、「個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、ICTは必要不可欠なものである」とも述べられています。このことは、本県の「学校教育の指針」で、全教育活動を通して取り組む教育課題として示された「ICTを活用した教育の推進」にもつながるものです。

以上のことから、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で研究に取り組むことは、学習指導要領及び「令和3年答申」、本県の「学校教育の指針」の趣旨が一層具現化され、児童生徒の資質・能力を確実に育成するための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進に資するものと考えます。

2 研究のねらい

本研究は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で、授業づくりやICTの効果的な活用について検討することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた更なる授業改善に資することをねらいとします。

3 研究の仮説

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で、学習活動や教師の支援、ICTの効果的な活用等を検討し、各教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことで、児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するだろう。

4 研究の内容

(1) 1年次（令和4年度）の取組

- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」等の言葉の捉え方について検討し、研修講座で活用する説明資料を作成しました。
- ・各教科の研修講座において、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点から、学習活動や教師の支援について学習指導案を基に検討する演習①を実施しました。
- ・演習シートや付箋紙の記述を基に、「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」について分析し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を取り入れることのできる「学習場面例」についてまとめました。
- ・ICTの活用事例や先行研究について情報を収集するとともに、演習シートや付箋紙の記述を参考にしながら、「ICT活用一覧表」の作成に取り組みました。

(2) 2年次（令和5年度）の取組

- ・演習①を踏まえ、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を単元（題材）など内容や時間のまとまりで構想する演習②を各教科の研修講座で実施しました。
- ・2か年の演習で蓄積してきたICTの活用方法を整理し、「学習場面例」に対応させた「ICT活用一覧表」を作成しました。
- ・演習①・②を基に、「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」から授業改善を図るための実践プランを、複数校種、複数教科で検討し、まとめました。
- ・演習の具体的な進め方や各教科の実践プラン、「ICT活用一覧表」、演習シート等をまとめた「手引」を作成しました。
- ・2年間の研究成果について、秋田県教育研究発表会において発表し、「手引」とともに当センターウェブサイト公開しました。

Ⅱ 研究の実際

1 本研究における言葉の捉え方

「個別最適な学び」「協働的な学び」は、資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を更に充実させるために必要な児童生徒の発達の支援の視点です。そして、それらの学びを支えるための基盤的ツールとしてICTの活用が必要不可欠であることを踏まえ、授業改善のイメージ図を作成しました（図2）。

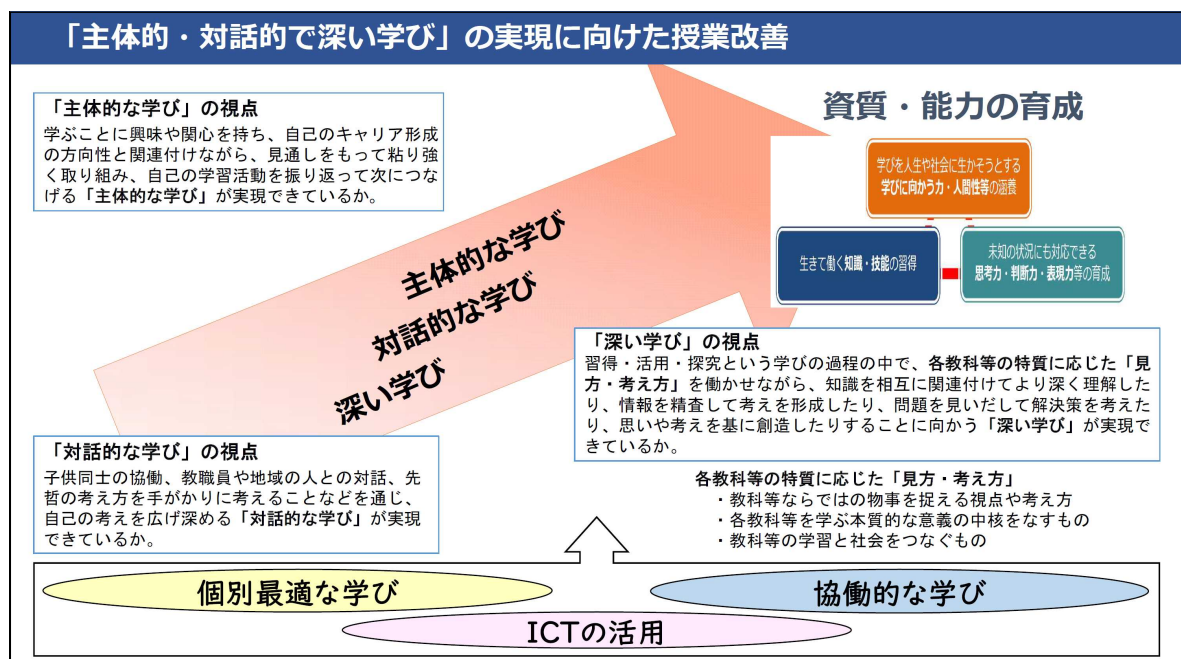


図2 授業改善のイメージ図

次のように、本研究で使用する「個別最適な学び」「協働的な学び」を捉えました。

< 個別最適な学び >

児童生徒が、学習課題や学習方法、学習活動などを、学習の定着度や興味・関心に応じて選択・設定できる学び

< 協働的な学び >

児童生徒が、多様な他者と共に活動することで、考えを広げ、深めることができる学び

2 研究推進に当たって

各研修講座において具体的な演習に入る際、「令和3年答申」で示されている「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の考え方の概要を説明する時間を設けました。

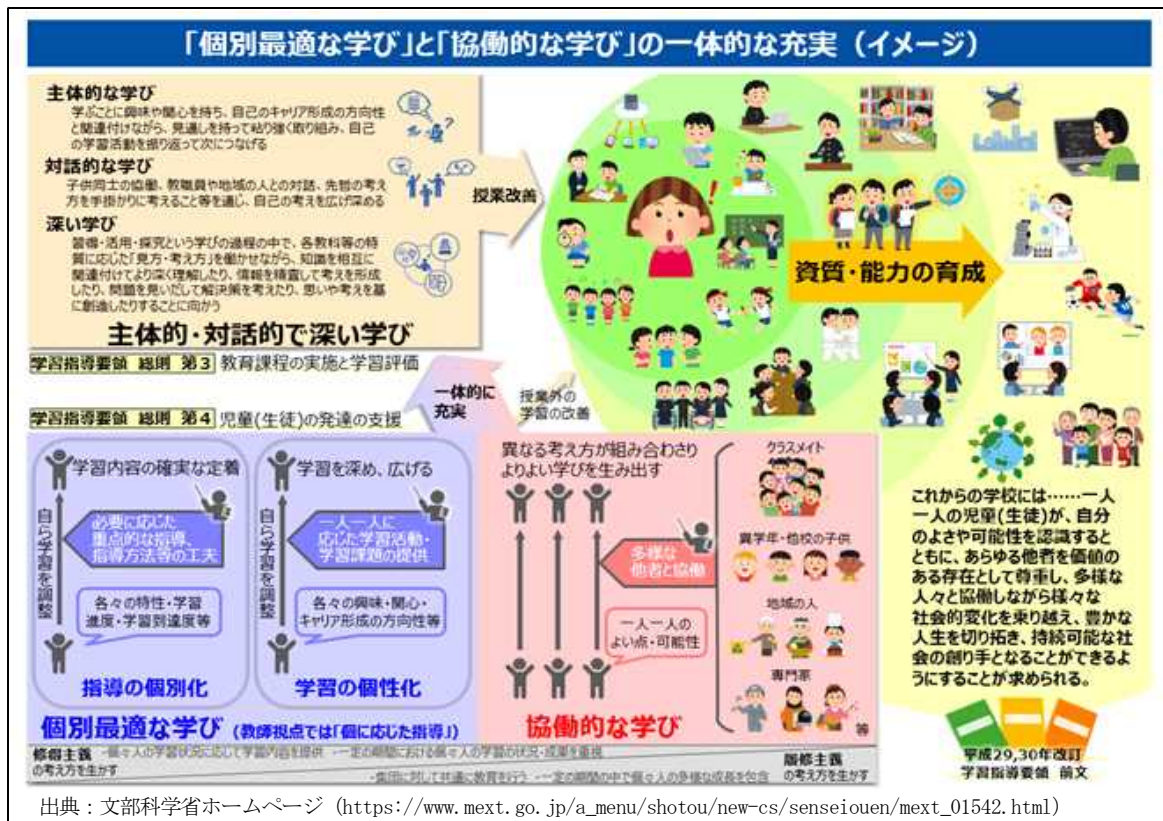


図3-1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」のイメージ図（図3-1）を基に、ポイントをまとめた研修講座資料（図3-2）を作成しました。資料は、各研修講座で活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることを前提として、受講者の理解が深まるよう工夫しました。

研究1年目は、演習①として、学習指導案と付箋紙を用いて1時間の授業に「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」を取り入れることができる学習活動や教師の支援について検討しました。

研究2年目は、演習①の成果と課題を踏ま

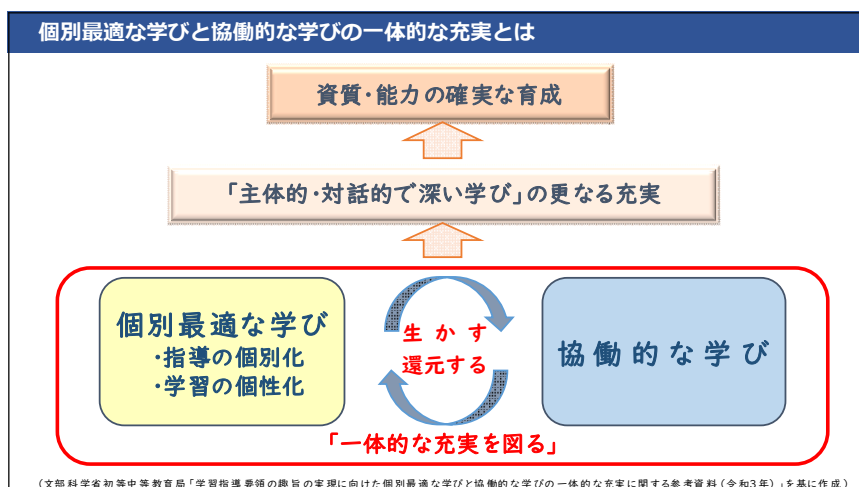


図3-2 研修講座資料の一例

え、単元（題材）など内容や時間のまとまりで「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を構想する演習②を実施しました。また、ICTの活用に関する先行研究事例や使用するソフト、機能の種類についての情報収集を行いました。そして、演習での受講者の発言や付箋紙に書かれた内容を基に授業づくりに役立つ「ICT活用一覧表」の作成に向けて分類や整理の方法、提示の仕方について検討を重ねました。

3 演習の進め方と実際

(1) 演習①「学習指導案を土台とした授業の再構築」の流れ

演習では「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」などのキーワードとなる言葉の捉え方について確認し、学習指導案の検討をします。検討において、学習指導案を基に、「個別最適な学び」は黄、「協働的な学び」は青、「ICTの活用」はピンクの付箋紙に学習活動や教師の支援に関するアイデアを書き込みます。その後、一体的な充実を図ることのできる場面について考察します。演習は、小・中・高の各教科の研修講座で実施しました。

(2) 演習①の実践例 —小学校算数科—

実践的指導力習得研修講座（小学校2年目）の算数では、学習指導案を基に個人での検討やグループ協議を行いました（図4）。「個別最適な学び」の付箋紙には、「自力解決の場面でブロックやシール、絵などの方法から児童が自分に合った学び方や解決方法を選択する」といったアイデアが書き込まれました。また、それぞれの学びを効果的に進めるための「ICTの活用」について、タブレットや大型モニターによる共有、振り返りなどが検討されました。

まとめと考察（図5）では、「学び方や解決方法を複数設定して選択できるようにすることが有効だと感じた」「個別から協働、個別の流れの中で、学びが深まる」といった意見が出されました。また、まとめと考察を行った後、より実践的な取組として「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点を取り入れた学習指導案の作成と模擬授業を実施しました。

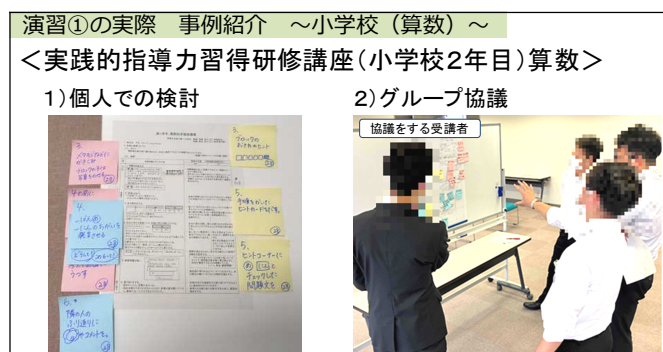


図4 算数科の演習①の様子

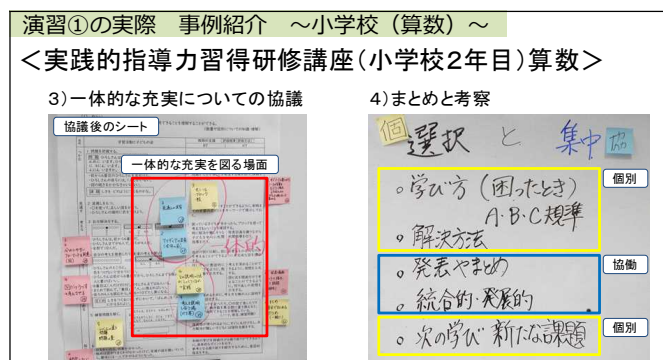


図5 算数科の演習①の様子

(3) 演習②「単元（題材）など内容や時間のまとまりで考える授業構想」の流れ

単元（題材）計画の中で授業構想する内容や時間のまとまり、育成する資質・能力、学習課題やねらいと達成した児童生徒の姿を検討し、設定します。

「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の視点で、それぞれの色の付箋紙に、学習活動や教師の支援についてのアイデアを書き込みます。児童生徒の思考に沿って、学習活動や教師の支援について付箋紙へ具体的に記述し、単元（題材）計画や教科書のコピーに貼ります。演習シートにその付箋紙を貼り付け、学習活動の流れを話し合い、「一体的な充実」の観点で付箋紙を関連付け、貼り直したり補筆したりしながら構造化します。演習を通して、自分の単元（題材）計画に反映させたい部分を再検討します。

(4) 演習②の実践例 ―中学校社会科―

秋田県教育委員会と市町（潟上市、五城目町、男鹿市）との連携事業では、地理分野の単元「東北地方」の演習を実施しました。身に付ける資質・能力を確認し、学習課題を「なぜ、東北三大祭りは、日程が重なっているのだろうか?」、まとめのキーワードを「農業に關係する行事がルーツ」「観光客のための日程調整」とし、スタート（学習課題）とゴール（まとめ）を決定しました。受講者それぞれが、講義の説明で確認した「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の視点に沿って三色の付箋紙にアイデアを書き込み、それらを持ち寄りグループ協議を行いました。同じ「集客」を目的としていても、「夏休み」「暑さ」という時期を優先した考えや地方活性化のための「六県の長」による話し合いなど、生徒の思考に沿って多様な予想が立てられました。グループ協議を経て、それぞれの付箋紙を関連付けながら教師の支援や児童生徒の学習活動を構造化しました（図6）。「観光客」

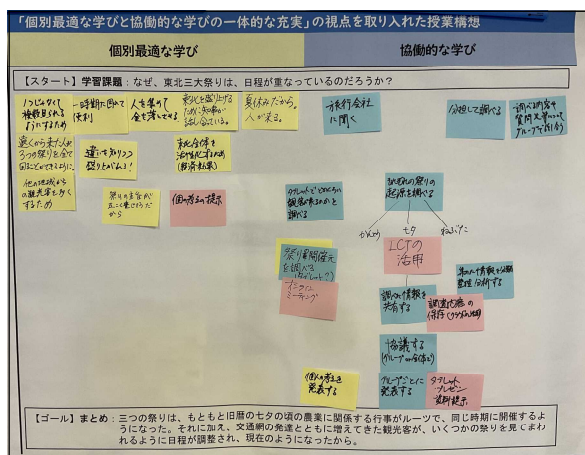


図6 中学校社会科の演習シート

「主催者」の二つに分類したり、「祭りのルーツが農業」にあることに着目したりしながら、調べたことを基に、「協働的な学び」の中で、どのように一体的な充実を図るかを検討しました。「ツアー会社」「実行委員会」への取材等、多様な他者との関わりで解決を図る道筋や、各自治体のホームページから統計データや資料を得た上で発表する場合もあれば、ジグソー法のような意見交流を行えばよい場合もあるという意見が出されました（図7）。演習②の特長は、スタートとゴールは同じであっても、そこに至るまでのアプローチが複数考案されるという点です。授業を生徒の思考に沿う形で、柔軟に展開していくことが求められます。



図7 中学校社会科の協議の様子

授業を生徒の思考に沿う形で、柔軟に展開していくことが求められます。

4 授業改善を図るための実践プラン

—小学校理科の実践プランから—

演習②を踏まえ「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」の視点から授業改善に向けた実践プランを検討し、図8のように各教科の具体的な実践プランをまとめました。単元（題材）計画のどの場面で「個別最適な学び」「協働的な学び」を設定し、ICTを活用しながら、どのようにして「一体的な充実」を図るかを一覧できるように示しました。

小学校 第5学年 理科 単元名「物のとけ方」	
第1時・第2時の目標 全3時間	
・水に溶けた食塩の行方についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。	
単元全体の計画	学習問題 水にとけて見えなくなった食塩は、どこにあるのだろうか。
1 食塩が水にとける様子から問題を見だし、「見えなくなった食塩は、水の中にある」などの予想に対する解決の方法を発想する (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ① 問題を解決するための検証方法を、それぞれの予想に合わせて個人で発想し、図や文で表現する。 例)「溶かす前後の重さを比較」「水を蒸発」「ろ過」「顕微鏡で観察」「大量の食塩を入れてみる」など ② 個で発想した検証方法が、科学的に目的に合ったものかどうかを全体で検討する。 ※自分で発想できない児童は、他の児童の方法から選択し、選択の理由を表現する活動が考えられる。
2 前時に発想した方法で検証し、他の児童と結果や考えを共有して考察する (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ③ 個、または同じ検証方法を選択したペアなどで実験を行う。 ④ 共有した複数の結果を基に、多面的に考えて結論付けるとともに、検証方法の妥当性を検討する。
3 ろ過や顕微鏡による観察など、問題の解決に結び付かなかった検証結果から、規則性や新たな問題を見出す (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 問題を科学的に解決する過程において、個として検証方法の発想や実験結果が得られれば、客観的により妥当な考えをつくりだすために、協働的な学びが必然となる。協働的な学びにより考えを深めた後に、個で自身の問題解決の過程を振り返り、次の問題につなげる。
ねらいを達成した児童の姿 水に溶けた食塩の行方について追求する中で、予想や仮説を基に、科学的な解決の方法を発想し、図や文で表現している。	

図8 実践プラン「小学校 第5学年 理科」

(1) 実践プランの構成<個別最適な学び>

第1時（前半部）で、「問題解決の検証方法を児童が個人で発想する」というように「個別最適な学び」を提案しました（図8-1）。「個別最適な学び」は、これまで教師視点で行っていた「個に応じた指導」を、「指導の個別化」「学習の個性化」の二つの側面から捉え直し、学習者視点から整理したものです。

小学校 第5学年 理科 単元名「物のとけ方」	
第1時・第2時の目標 全3時間	
・水に溶けた食塩の行方についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。	
単元全体の計画	学習問題 水にとけて見えなくなった食塩は、どこにあるのだろうか。
1 前時に発想した方法で食塩が水にとける様子から問題を見だし、「見えなくなった食塩は、水の中にある」などの予想に対する解決の方法を発想する	<ul style="list-style-type: none"> ① 問題を解決するための検証方法を、それぞれの予想に合わせて個人で発想し、図や文で表現する。 例)「溶かす前後の重さを比較」「水を蒸発」「ろ過」「顕微鏡で観察」「大量の食塩を入れてみる」など

図8-1 実践プラン（図8）の拡大版①

(2) 実践プランの構成<協働的な学び>

第1時（後半部）では、児童が個人で発想した検証方法が、「科学的に目的に合ったものかどうかを全体で検討する」というように、「協働的な学び」の進め方を提案しました（図8-2）。検証方法を検討する中で、個人での発想が困難な児童への手立てを示しています。集団の中で個が埋没してしまうことがないように、児童一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出すことができるように工夫しています。

小学校 第5学年 理科 単元名「物のとけ方」	
第1時・第2時の目標 全3時間	
・水に溶けた食塩の行方についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。	
単元全体の計画	学習問題 水にとけて見えなくなった食塩は、どこにあるのだろうか。
1 前時に発想した方法で食塩が水にとける様子から問題を見だし、「見えなくなった食塩は、水の中にある」などの予想に対する解決の方法を発想する	<ul style="list-style-type: none"> ② 個で発想した検証方法が、科学的に目的に合ったものかどうかを全体で検討する ※自分で発想できない児童は、他の児童の方法から選択し、選択の理由を表現する活動が考えられる。

図8-2 実践プラン（図8）の拡大版②

(3) 実践プランの構成<一体的な充実>

「個別最適な学び」が孤立した学びにならないよう「一体的な充実」を図るためのポイントを示しています(図8-3)。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を切り離して学習活動を展開するのではなく、それぞれの学びを関連付けながら学習を進めていくことが大切です。相互に関連付けることで学びが深まったり、新たな課題の発見につながったりします。

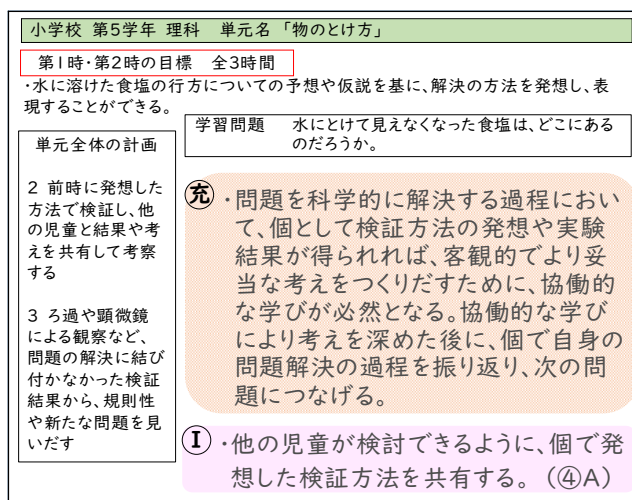


図8-3 実践プラン(図8)の拡大版③

(4) 実践プランの構成<ICTの活用>

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点を加えて学習活動や教師の支援、ICTの活用方法を検討することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されていきます。これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、学習履歴を活用した学習の進め方の検討や、効率的な意見の交流や共有、遠隔地の専門家とつないだ授業など、学習活動の幅を広げられるよう提案しました。

5 「学習場面例」と「ICT一覧表」

付箋紙の整理・分類を基に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を設定できる「学習場面例」をまとめました(図9)。「個別最適な学び」を設定できる場面として、「既習の学習内容を確認する場面」「学習課題やめあてを設定する場面」「情報を収集する場面」「補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面」などを取り上げました。また、「協働的な学び」を設定できる場面として、「交流・共有する場面」「整理やまとめをする場面」「制作(製作)・表現・実践する場面」「相互評価をする場面」などを取り上げました。

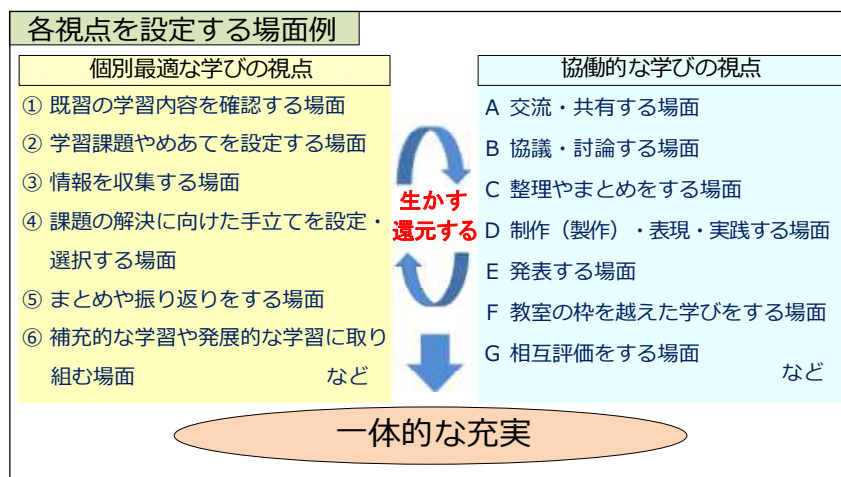


図9 各視点を設定することのできる「学習場面例」

「一体的な充実」を図るには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の学習場面を、授業のねらいに応じて組み合わせることが必要であると考えました。

「ICTの活用」については、付箋紙の記述や受講者の感想から見てきた課題を踏まえ、「ICT活用一覧表」を作成しました(図10)。図9で示した「各視点を設定することのできる学習場面例」を基に、各場面や、場面と場面を組み合わせた場合の学習活動、学習活動を円滑に進めていくためのソフトや機能をまとめました。

ICT活用一覧表		個別最適な学びの視点	協働的な学びの視点
【ICT活用一覧表の見方】 (例) ①Aは、①「既習の学習内容を確認する」際に、その学習の成果をA「交流・共有をする」活動に生かしたり、さらにその学習の成果を①「既習の学習内容を確認する」活動に還元したりするなど、①とAが往還する学習における活用例(方法)を示す。			
		① 既習の学習内容を確認する場面 ② 学習課題やめあてを設定する場面 ③ 情報を収集する場面 ④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面 ⑤ まとめや振り返りをする場面 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面	A 交流・共有する場面 B 協議・討論する場面 C 整理やまとめをする場面 D 制作(製作)・表現・実践する場面 E 発表する場面 F 教室の枠を越えた学びをする場面 G 相互評価をする場面
個別最適な学びの視点	協働的な学びの視点	一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例	
①	A	○既習の学習内容を確認するために、資料やファイルを電子黒板(スクリーン)に投影したり、タブレット端末に配信したりする。 ○学習履歴を確認するために、クラウド上のフォルダから自由に閲覧できるようにして、必要な資料やファイルを引き出す。	
	B	○答えの求め方について確認するために、共同編集機能等で効率的な答えの求め方を協議する。	
	E	○既習の学習内容を共有するために、発表者の資料やファイルを電子黒板(スクリーン)に投影する。	
②	A	○学習課題を設定するために、着目させたい資料や教材をタブレット端末へ配信する。 ○個々の立場を可視化したり意思表示したりするために、学習支援ソフトの位置付け(ポジショニング)機能を活用する。 ○全員が多様な資料を閲覧、共有できるように、授業支援アプリケーションの保存機能を活用する。 ○諸資料、作品、動画等を電子黒板(スクリーン)に映し、気付いたことを比較・共有するために、電子付箋紙機能を活用する。	
	B	○新たな問いを引き出すために、前時の振り返りやまとめの記述を画面上で共有し、相違点や共通点を見いだす。 ○学級全体の傾向を見るために、投票機能を使って円グラフや棒グラフで統計に表す。	
	C	○多種多様な考えや疑問等を整理するために、電子付箋紙機能を活用し、色分けしてグルーピングする。 ○自分の学習課題を整理するために、各自が設定した学習課題を、電子黒板(スクリーン)や学習支援ソフトで共有する。	
	D	○学習内容の定着を図るために、教材・教具を使用する際、その使い方の動画をタブレット端末を用いて視聴する。	
	E	○学習課題やめあてを全体で確認するために、設定の理由についてプレゼンテーションにまとめる。	

図10 ICT活用一覧表

実践プランの「ICTの活用」には、(④A)などの記号が示されています。図11の(①A)は、①「既習の学習内容を確認する」際に、その学習の成果を、A「交流・共有する」活動に生かしたり、さらに、その学習の成果を①「既習の学習内容を確認する」活動に還元したりすることを示しています。

ICT活用一覧表		一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例
個別最適な学びの視点	協働的な学びの視点	
①	A	○既習の学習内容を確認するために、資料やファイルを電子黒板(スクリーン)に投影したり、タブレット端末に配信したりする。 ○学習履歴を確認するために、クラウド上のフォルダから自由に閲覧できるようにして、必要な資料やファイルを引き出す。
	B	
	E	
②	A	着目させたい資料や教材をタブレット端末へ配信する。 意思表示したりするために、学習支援ソフトの位置付け(ポジショニング)機能を活用する。 全員が多様な資料を閲覧、共有できるように、授業支援アプリケーションの保存機能を活用する。 電子黒板(スクリーン)に映し、気付いたことを比較・共有するために、電子付箋紙機能を活用する。 前時の振り返りやまとめの記述を画面上で共有し、相違点や共通点を見いだす。 投票機能を使って円グラフや棒グラフで統計に表す。
	B	
	C	
	D	
	E	○学習課題やめあてを全体で確認するために、設定の理由についてプレゼンテーションにまとめる。

図11 ICT活用一覧表 (①A)

6 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善（手引）の作成

これまで2年間の研究を「手引」としてまとめました。二つの演習の進め方、複数校種、複数教科の実践プラン例、他に資料として「ICT活用一覧表」や演習用シートもダウンロードして活用できるようにしました。

<手引の構成と主な内容>

1 「令和3年答申」の概要

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」の三つの視点について、学習場面例を提示しながら説明。

2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る演習の進め方

演習①「学習指導案を土台とした授業の再構築」

本時案の中で一体的な充実を図るための方法を考える。

演習②「単元（題材）などの内容や時間のまとまりで考える授業構想」

単元（題材）などの内容や時間のまとまりの中で一体的な充実を図るための方法を考える。

3 実践プラン例

小学校、中学校、高等学校、各4教科ずつの実践プラン例を提案。

<資料>

・各視点を設定できる場面例

「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、どのような学習場面で展開され得るのかを図示。

・ICT活用一覧表

具体的な学習場面における一体的な充実を図る上でのポイントとなるICTの活用例の提示。

・演習シート

演習②で用いる演習シート。「個別最適な学び」「協働的な学び」を分類、構造化しながら授業を構想できるように作成。



「手引」の表紙

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 演習に取り組んだ受講者の振り返り票の記述

受講者Aは、生徒個々への考えのめたせ方やICTを活用した協働的な学びの具体化を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を関連付ける大切さを感じ取っていました。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について、具体的に授業をつくってみて、個の学びのための考えのめたせ方、個の意見を広げていく協働的な学びのしかけとしてICTが活用できると考えます。常に運動することが大切なのかと感じました。

受講者Aの振り返り票の記述

受講者Bは、教師主導になりがちな自分の授業に悩みを抱えていましたが、演習を通して、児童を主体とした授業づくりのヒントを得たことがうかがえました。また、教師同士による「協働的な学び」が、研修においても必要であることを理解することができました。

授業を実際にやると、つい私の方で成り立たない部分を指摘してしまう。今日の演習の中で、広げられる部分のヒントをもらったような気がする。一人で授業づくりをしているとつらい部分もあり、この機会は本当に楽しかったです。

受講者Bの振り返り票の記述

(2) 演習を基に、実践に取り組んだ受講者の感想

受講者Cは、学習課題の設定を児童に委ねることに不安を感じていました。しかし、実践の中で、個を生かした「協働的な学び」を展開することにより、児童の学びに対する意欲の高まりを目の当たりにすることで、実感的に学びの成果を捉えていました。

学習課題を子ども一人一人に合わせるということに不安がありましたが、授業をしていく中で、主体的に学習する子どもの姿が見られました。個を生かした協働的な学びも問いを工夫することで、子どもが意欲的に活動していました。

受講者Cの感想

受講者Dは、「なぜ？」という問いをもち続け、生徒が身に付けている資質・能力を活用する姿に着目していました。自分の興味・関心に基づいて設定したテーマや学習課題は、級友との多様な関わりや意見交流を通し、一人一人の学びを支えていることに気付くことができました。

自分で気付かなかった「なぜ？」の部分を追究することで、身に付けている資質・能力が活用できたと思った。更に違うテーマの内容であっても考えを聞くことで、納得したり、疑問が深まったりすると感じた。共通点を見付けグループで話し合いをすることで協働的な学びにつながり、自分のテーマをもち続けているので、主体的に学習できていたと感じた。

受講者Dの感想

以上に示す受講者の感想から、演習を通して「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」についての理解が深まったことに加え、新たな気付きを得て、授業改善に対する意識が向上したことを読み取ることができました。

(3) 授業改善に関するアンケートの分析・検討

演習前後の授業改善に関するアンケート結果を比較しました。4件法により、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を肯定的回答とし、分析・検討を行いました。

「①個別最適な学びの視点からの授業改善を行っているか」の項目では、演習実施前は肯定的回答の割合が66%、演習後は85%と19ポイント増加しました（図12）。演習を通して「個別最適な学び」としての学習活動や教師の支援の具体を考え、それを基に授業改善に取り組んでいると捉えました。

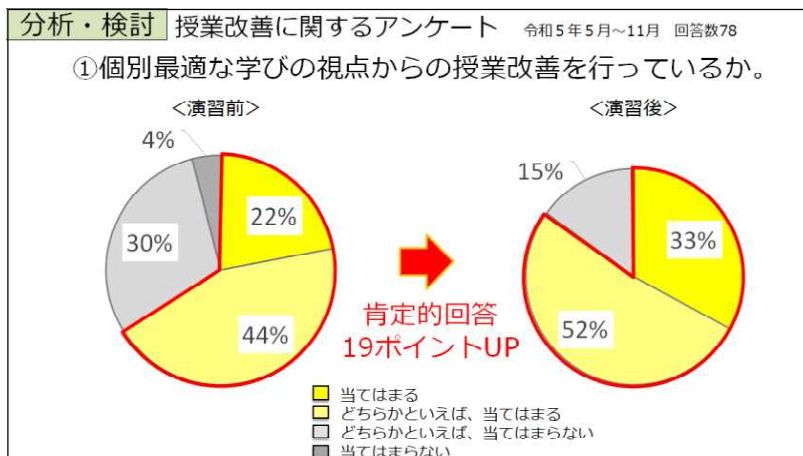


図12 ①個別最適な学びについて

「②協働的な学びの視点からの授業改善を行っているか」の項目では、演習実施前は肯定的回答の割合が96%、演習後は100%でした（図13）。これは、本研究の成果というよりは、県内各校において、「児童生徒による話し合いや討論の学習過程を重視する秋田の探究型授業」が日常的に実践されている結果と捉えることができました。

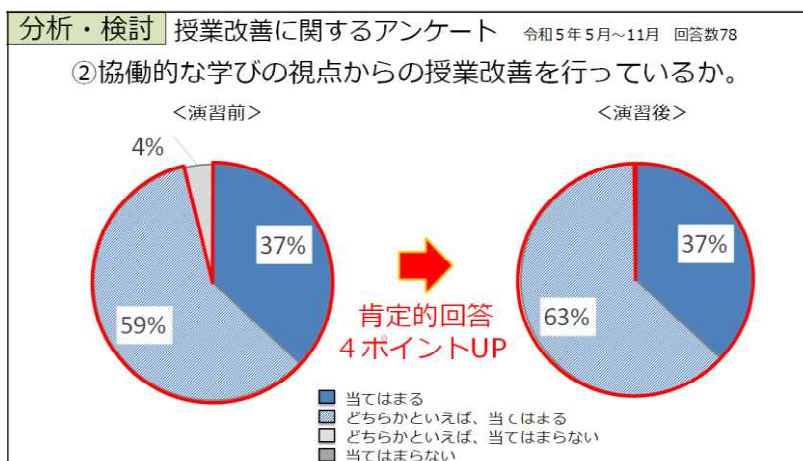


図13 ②協働的な学びについて

「③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善を行っているか」の項目では、演習実施前の肯定的回答の割合は52%にとどまり、回答した先生方の多くが「一体的な充実」を図る難しさを感じていると推察できました。演習後は89%と37ポイント増加しました（図14）。このことから、受講者の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の「一体的な充実」を図るための手立てが具体化されてきたことが分かりました。

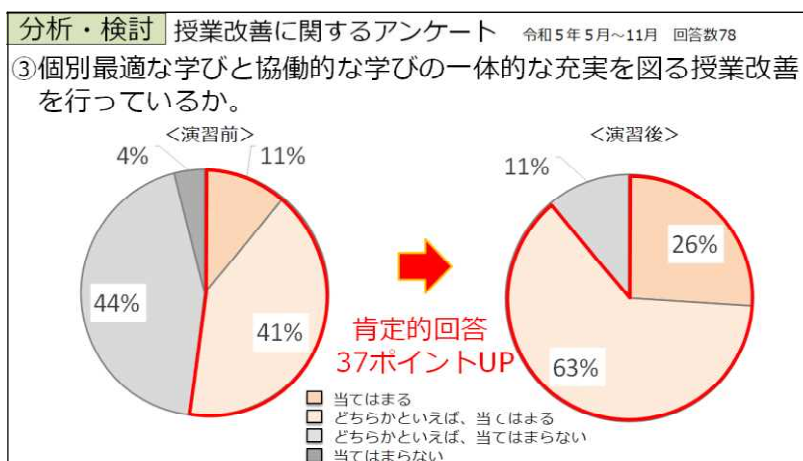


図14 ③一体的な充実について

(4) 実践プランと授業

— 高等学校家庭科 —
 令和5年8月2日、中堅教諭等資質向上研修講座で演習①を実施しました。9月5日、K高等学校にて、図15に示す実践プランの基になる授業が行われました。後日、授業者にインタビューしたところ、「主体的に学習に取り組む、学ぶ意義を感じている生徒の姿を見取ることができた」という発言があり、題材(単元)を通して身に付ける資質・能力の確実な育成につながる学習が展開されたことがうかがえました。

— 小学校算数科 —
 令和5年8月24日、A小学校の学校支援研修講座で演習②を実施しました。9月26日、図16に示す実践プランの基になる授業が行われました。授業動画から、次に示す各視点における児童の学びの姿を捉えることができました(図17)。数量の関係に着目し、筆算の仕方を図、数、式などを用いて説明する姿から、児童の資質・能力の高まりを見取ることができました。

高等学校 第2学年 家庭科 単元名「経済的に自立した人生を送るために」	
第1時の目標 全15時間	本時のねらい 経済的に自立に向けた自己の課題を考え、まとめることができる。
本時の学習計画 1 「経済的に自立する」とはどのようなことか、現時点の自分の考えを記入する 2 単元を貫く学習課題と、本時の目標を確認する 3 事例を読み、Aさんの選択に対する自分の意見を記入する 4 判断する際に疑問に感じた点などについてICT等を用いて調べ、プレゼンテーションソフトを用いてまとめる 5 調べたことを踏まえて、事例について再検討し、Aさんへの根拠を明確にしたアドバイスとなるよう、自分の考えをまとめ、全体で共有する 6 「経済的な自立」に向けた自己の課題を考え、まとめる	① Aさんの消費行動や家計管理等に係る判断に対するアドバイスを考える。 ・感情論ではなく、根拠のある適切なアドバイスとなるよう、事例内の疑問点等を調べる。 ・調べる方法や、内容、誰と調べるかを生徒自身が選択する。 ・事例の問題点について、将来のライフスタイルと照らし合わせて、その解決方法を考えたり、実際の生活や地域社会で生かす場面を想定したりしながら、生徒自身の課題を見いだす。 ② 退職金や引越越し費用、家計管理など、どのような点に着目したか、また調べた結果何が分かったか、Aさんにどのようなアドバイスをするかなどを紹介し合う。 ・他者の発表から得た新たな気付きを踏まえ、経済的な自立に必要なことを再考する。 ③ 個々の調べ学習と、他者との情報共有を通じて、「経済的に自立する」ことについて、考えを深めたり、生徒自身の問題を見いだしたりする。 ・「経済的に自立する」ことについて生徒自身の問題と関連させて考えることで、学ぶ意義を認識するとともに、単元を通じた学習の見直しをもつ。 ④ 自身の考えを裏付けるための情報を得る手段として1人1台端末を活用する。(③F) ・調べた内容を、他者と共有するため、プレゼンテーションソフトを活用し、まとめる。(③E) ・作成した資料は、ポートフォリオとして、単元を貫く学習課題に対する自身の考えを深め、整理するために活用する。(⑤C) ⑤ 「経済的に自立する」ことについて、高校卒業後のライフスタイルや生涯設計と関連付けて考え、単元を通じてどのような力を身に付ける必要があるかをまとめている。
ねらいを達成した生徒の姿 「経済的に自立する」ことについて、高校卒業後のライフスタイルや生涯設計と関連付けて考え、単元を通じてどのような力を身に付ける必要があるかをまとめている。	

図15 実践プラン「高等学校 第2学年 家庭科」

小学校 第3学年 算数科 単元名「大きな数のかけ算のしかたを考えよう」	
第7時～第9時の目標 全12時間	・数量の関係に着目し、3位数×1位数の筆算の仕方を考え、説明している。
単元全体の計画 1 何十、何百×1位数の計算 (2時間) 2 2位数×1位数の筆算の仕方 (4時間) 3 3位数×1位数の筆算の仕方 (2時間) 4 3位数×1位数の筆算の仕方の共有 (1時間) 5 乗法の結合法則 (1時間) 6 学習内容の定着と振り返り (2時間)	学習問題と課題 (1) 312×3 (2) 386×2 (3) 937×4 の筆算は、どのように計算すればよいだろうか。 ① 2位数×1位数の筆算の仕方を基に、3位数×1位数の筆算の仕方を類推的に考え、解決の見直しをもつ。 ・解決のための学習の進め方を考える。 ② 「取り組む問題の順番」「学習形態」「解決のために必要な物」「筆算の仕方を説明する方法」「答えの確認の仕方」「練習問題での確認」など ③ 問題(1)～(3)の筆算の仕方について、2位数×1位数との共通点や相違点、乗法に関する大切な考え方などを話し合う。 ・問題解決の過程や結果を振り返るとともに、練習問題を解き、自らの学びを確認する。 ④ これまで学習してきた乗法の意味や、十進法位取り記数法や乗法九九などを基に、3位数×1位数の筆算の仕方を具体物、図、数、式などを用いて表現し、確かめている。 ⑤ 他の子の学習の進捗状況を、電子黒板や1人1台端末で確認し、自らの問題解決の参考にする。(③B) ・筆算の仕方を説明するため、ノートの内容を画像化したり、筆算の仕方の説明動画を作成したりする。(⑤C) ⑥ ねらいを達成した児童の姿 数量の関係に着目し、3位数×1位数の筆算の仕方を、具体物、図、数、式などを用いて説明している。

図16 実践プラン「小学校 第3学年 算数科」

「個別最適な学びの視点」	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもち、自らの学習方法や活動を選択している。 ・次の問題へ進み、挑戦している。
「協働的な学びの視点」	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の考えの共通点を見いだしている。 ・解決のためのヒントを得て、自分の解決方法を見直している。
「一体的な充実の視点」	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自らの学習を調整し、個別最適な学びと協働的な学びを行き来しながら、主体的に学習に取り組み、対話を通して学び合っている。

図17 小学校 第3学年 算数科における児童の学びの姿

研究の成果（○）は、次の三点です。

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」の概念の理解が深められ、授業実践に結び付けることができた。
- 学習者の視点から学習活動、学習環境を捉え直すことで、児童生徒の主体的な学びを引き出す工夫について具体的に考えることができた。
- 「一体的な充実」の視点で学習活動を見直すことで、教師の支援の在り方について、考えを深めることができた。

2 今後に向けて

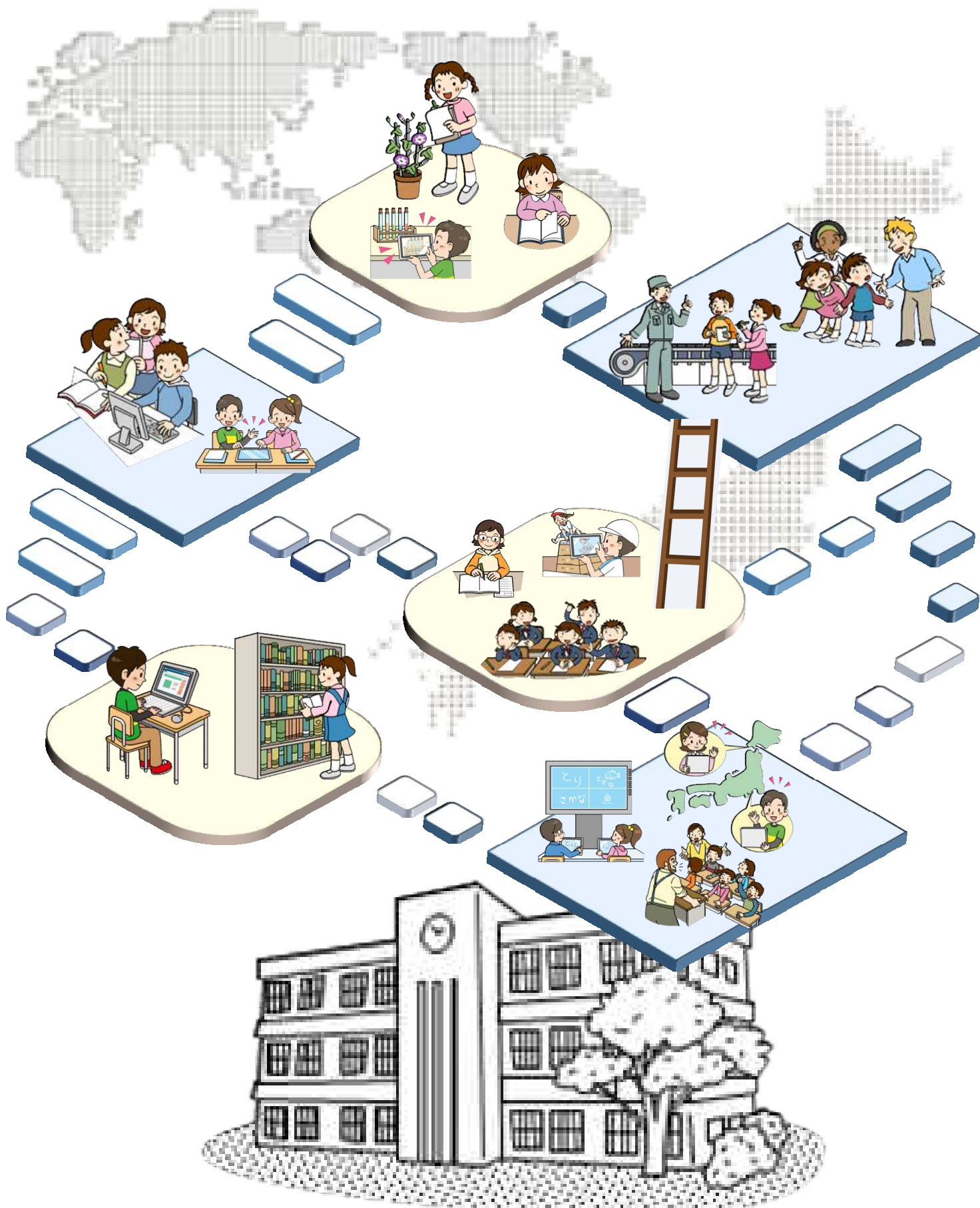
研究の課題（●）は、次の二点です。

- 演習や計画の作成で終わらず、各校での実践につなげ、児童生徒の実態等に合わせてプランを見直し、さらなる改善を図っていく必要がある。
- 演習そのものが目的化しないように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点をより一層明確にしていく必要がある。

課題を受け、今後の研修講座等を通して、次のことに取り組んでいきたいと考えてます。

- ・各校の児童生徒の実態に合わせ「手引」を広く活用してもらうように先生方に働き掛けていく。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、教師の具体的な手立てについて学び合う場を継続的に提供していく。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善 (手引)



目次

1	はじめに～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて.....	57
2	「個別最適な学び」と「協働的な学び」.....	58
3	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実.....	60
4	I C Tの活用について.....	60
5	授業改善を図る演習の提案.....	61
6	演習① 学習指導案を土台とした授業の再構築.....	62
7	演習② 単元(題材)など内容や時間のまとまりで考える授業構想.....	64
8	実践プラン例の内容.....	66
9	実践プラン例【小学校】国語科、算数科.....	67
10	実践プラン例【小学校】理科、音楽科.....	68
11	実践プラン例【中学校】社会科、英語科.....	69
12	実践プラン例【中学校】美術科、保健体育科.....	70
13	実践プラン例【高等学校】国語科、数学科.....	71
14	実践プラン例【高等学校】理科、家庭科.....	72

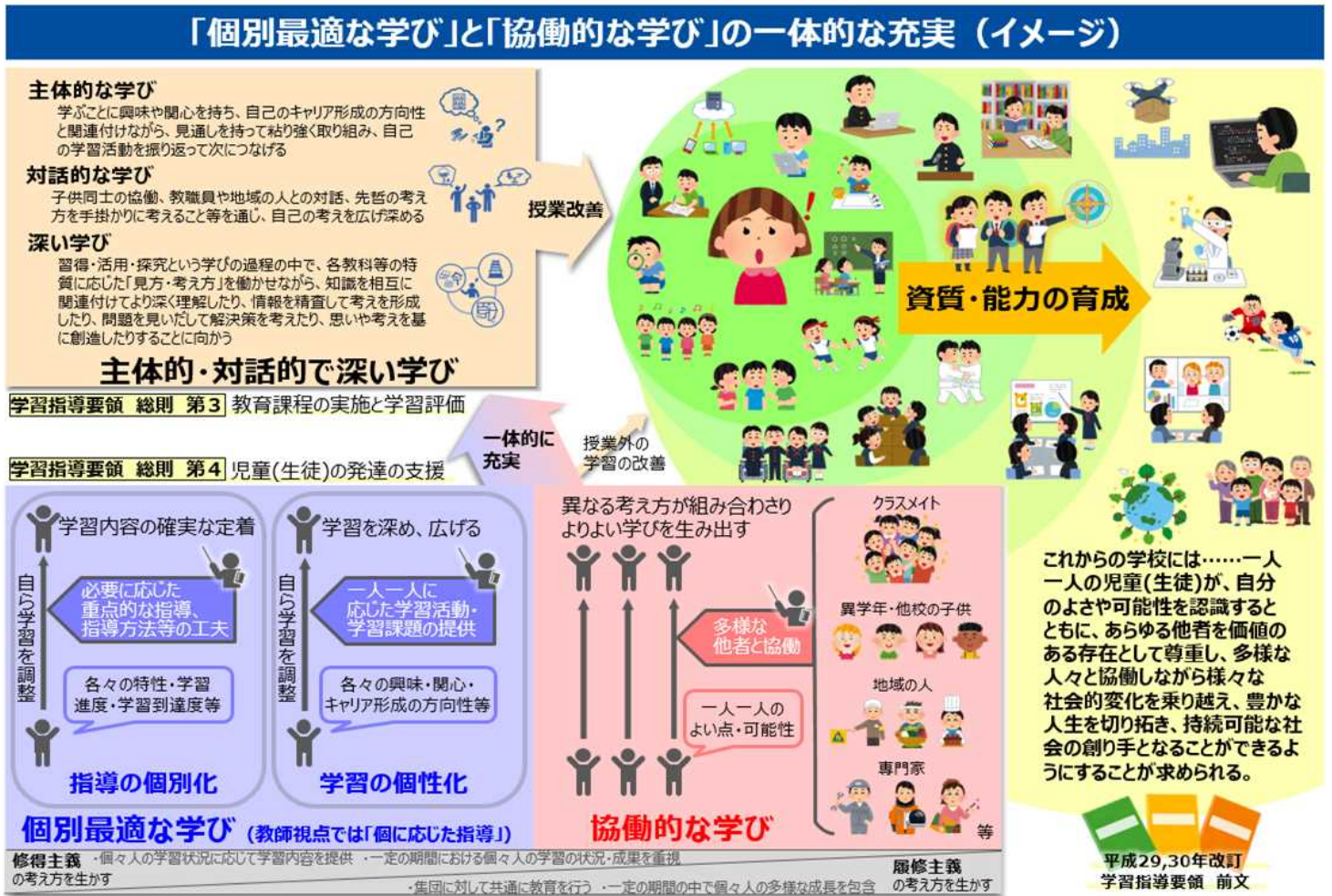
<資料>

○各視点を設定する場面例 [資料1]	73
○I C T活用一覧表 [資料2～4]	74
○演習シート①(横) [資料5]	77
○演習シート②(横) [資料6]	77
○演習シート②(縦) [資料7]	78
○演習シート②(縦) [資料8]	78

1 はじめに～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

本手引は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から、これまでの学習活動や児童生徒の発達支援について捉え直すことで、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図り、児童生徒の資質・能力を確実に育成するための授業改善につなげることを目的としています。また、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」において、基盤的なツールとして必要不可欠なものとして位置付けられているICTの活用についても、効果的な活用場面や活用方法について検討できるよう、ICT活用一覧表を作成しました。

社会の急激な変化に伴い、教室を取り巻く環境や児童生徒の学び方も大きく変化しています。本手引を児童生徒の資質・能力を育む授業改善にお役立てください。



出典：文部科学省ホームページ (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01542.html)

授業改善に向けて

「主体的・対話的で深い学び」との関係性をどう捉えれば…？

point!

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して資質・能力の確実な育成を図っていく方向性はこれまでと同じです。
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点を加えて学習活動や教師の支援、ICTの活用を検討することで、「主体的・対話的で深い学び」を更に充実させていくことにつながります。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

個別最適な学びって何だろう？

◇「指導の個別化」と「学習の個性化」

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）令和3年中央教育審議会」（以下「令和3年答申」と略）では、児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う「指導の個別化」、児童生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、児童生徒自身が学習が最適になるよう調整する「学習の個性化」が必要であると述べられています。

これらの考え方は、新しい概念ではなく、これまでも「個に応じた指導」として実践されてきました。「令和3年答申」では「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」と示されました。

◇「教師視点」から「学習者視点」へ

指導の個別化

- ◇一定の目標を、全ての児童生徒が達成することを旨す
- ◇児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じる
- ◇必要に応じた重点的な指導や指導方法、教材等の工夫をする

学習の個性化

- ◇異なる目標を、一人一人の児童生徒が達成することを旨す
- ◇児童生徒の興味・関心、キャリア形成の方向性等に応じる
- ◇児童生徒一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供する

◇「個別最適な学び」を取り入れることのできる学習場面例

既習の学習内容を確認する場面

学習課題やめあてを設定する場面

情報を収集する場面

課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面

……

補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面

授業改善に向けて

これまでの授業と、どう違うのかな？

point!

- ・ これまでも「学習指導の最適化」「個に応じた指導」など、個性や自主性を重視する方向性は示されており、全く異なるものではありません。教師視点から行っていた支援を、学習者である児童生徒の視点から見直そうというものです。
- ・ 単元（題材）の計画、本時の計画、評価の計画、実施に向けた学習環境の整備など、これまで以上に見通しをもって授業計画を立てておくことが必要になりそうです。

協働的な学びって何だろう？

◇「個別最適な学び」を孤立させない「協働的な学び」

「令和3年答申」では、「『個別最適な学び』が『孤立した学び』に陥らないよう、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実することも重要である。」と述べられています。

また、「『協働的な学び』においては、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげ、子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。」とも示されています。

「協働的な学び」もこれまでと全く異なる新しい考え方と捉えるのではなく、これまでも様々な場面で取り入れられてきた他者と学び合う学習活動を発展させたものと考えてはどうでしょう。「個別最適な学び」とのつながりやICTの活用を含めて、更に多様で充実した活動にしていくことが求められています。

◇「多様な他者」とはどんな人たち？



クラスメイトと



他校の児童生徒と



地域の人と



専門家と



異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

◇「協働的な学び」を取り入れることのできる学習場面例

交流・共有する場面

協議・討論する場面

整理やまとめをする場面

制作(製作)・表現・実践する場面

……

教室の枠を越えた学びをする場面

授業改善に向けて



「孤立した学びに陥らないように」って、
どういうことだろう？

point!

「個別最適な学び」を孤立させないために、協働的な学びが必要です。「協働的な学び」において、自分とは異なる感性や考え方等に触れ、考えを広げたり深めたりすることにつながります。

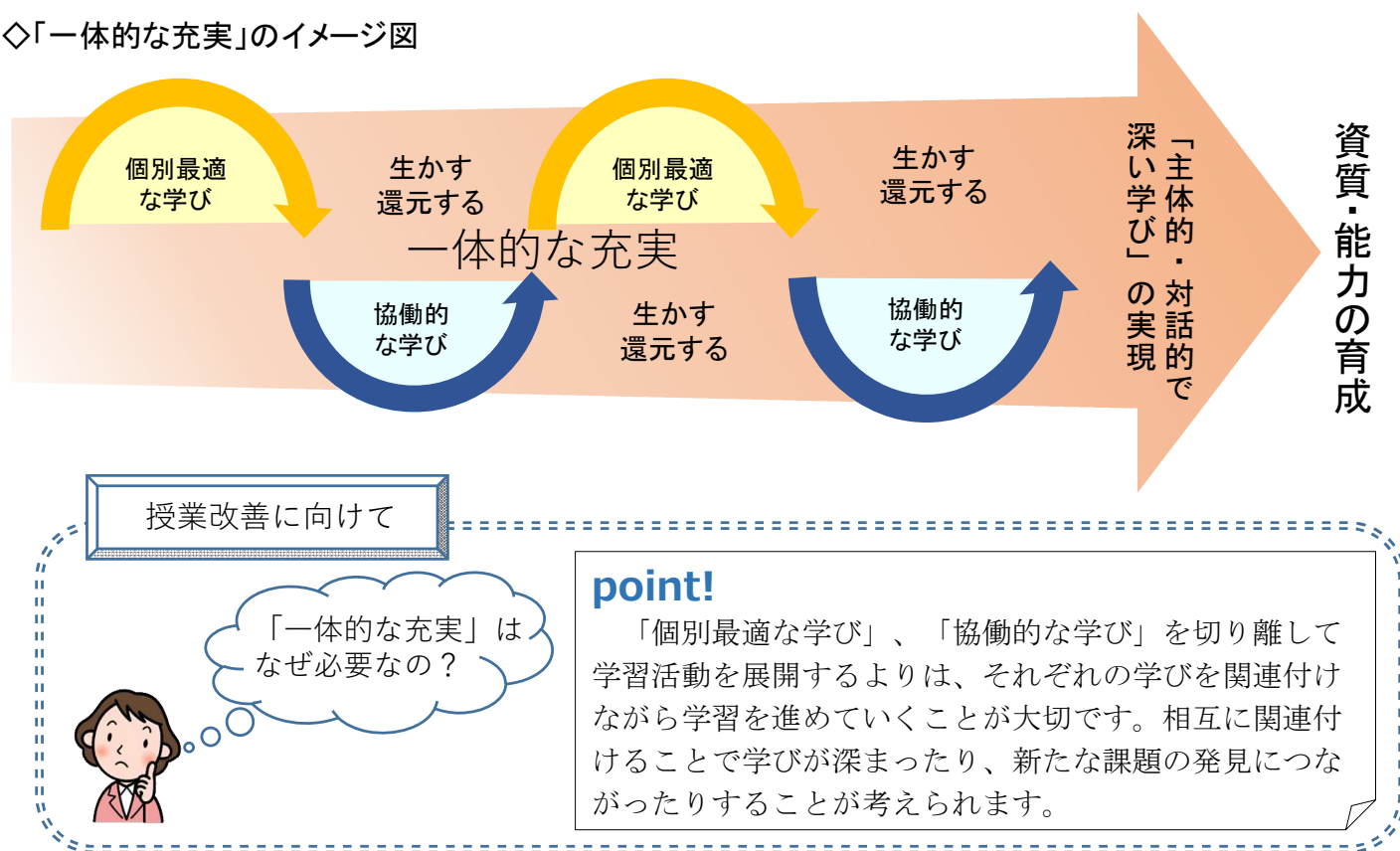
3 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

一体的な充実に向けて

◇「一体的な充実」と「主体的・対話的で深い学び」の実現

「令和3年答申」では、「学校における授業づくりに当たっては、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じて、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。」と述べられています。

◇「一体的な充実」のイメージ図



4 ICTの活用について

ICTの活用

◇「個別最適な学び」「協働的な学び」に必要不可欠なICTの活用

令和3年答申では、「子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠なものである。」と述べられています。「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、ICTの活用によってはじめて実現される側面もあります。また、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、学習履歴を活用した学習の進め方の検討や、遠隔地の児童生徒を専門家とつないだ授業など、今までにできなかった学習活動が可能になり、教育の幅が広がることが期待できます。

一方で、「ICTはこれからの学校教育に必要不可欠なものであり、基盤的なツールとして最大限活用していく必要があるが、その活用自体が目的でないことに留意が必要である。」とも述べられています。活用する場面や目的を明確にし、資質・能力を育む上で効果的な活用方法を吟味することに留意する必要があります。

付箋紙を用いた「個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に向けた授業改善」のための演習

3色の付箋紙を用いた二つの演習を提案します。演習では、「個別最適な学び」は黄、「協働的な学び」は青、「ICTの活用」はピンクとして色分けしています。

個別最適な
学び

協働的な
学び

ICTの
活用

演習①

学習指導案を土台とした授業の再構築

準備する物

- 学習指導案
- 付箋紙3色
- サインペン
- マーカーペン
- 拡大した学習指導案
- 手引

演習②

単元(題材)など内容や時間のまとまりで考える授業構想

準備する物

- 単元(題材)の計画 または 教科書等のコピー
- 付箋紙3色
- サインペン
- マーカーペン
- 手引
- 演習シート(手引末の資料5~7のうち、いずれか1枚)

演習では手引末の資料

資料1

各視点を設定する場面

と

資料2~4

ICT活用一覧表

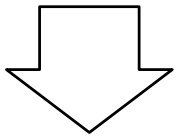
を活用します。

(演習②では資料5~8の演習シートも活用します。)

演習① 学習指導案を土台とした授業の再構築

STEP1
全体

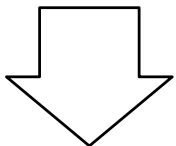
学習指導案を用意し、単元（題材）で育成する資質・能力を確認して、スタート（学習課題やねらい）とゴール（学習課題やねらいを達成した児童生徒の姿）を設定します。



STEP2
全体

「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の視点について確認します。

※各視点を設定する場面（資料1）とICT活用一覧表（資料2～4）を参考に設定可能な場面を検討します。

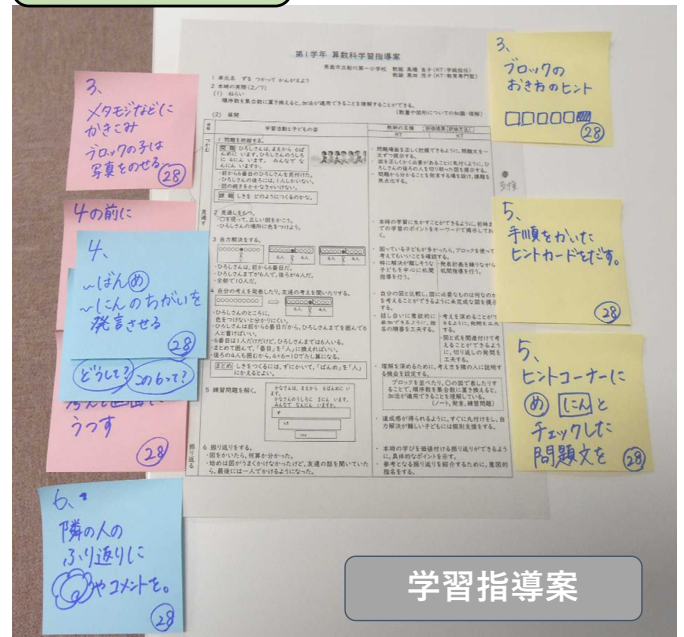


STEP3
個人

児童生徒の思考に沿って、学習活動や教師の支援について具体的に付箋紙に記述し、学習指導案に貼ります。

STEP3

学習指導案
【小学校算数科】

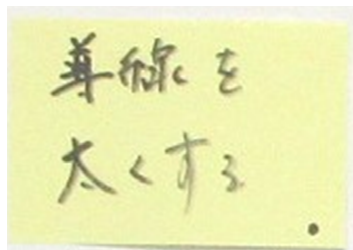


学習指導案

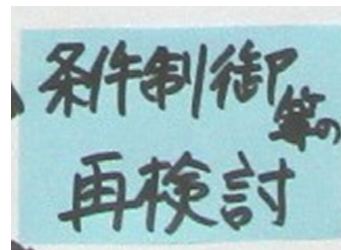
STEP3

【小学校理科】

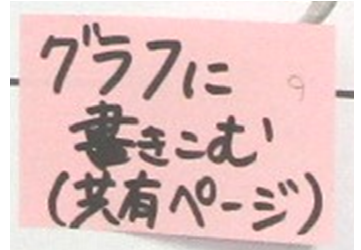
学習課題 電磁石を強くするには、どうすればよいだろうか。



個別最適な学び

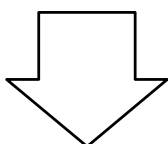


協働的な学び

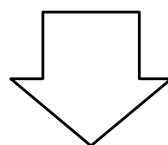


ICTの活用

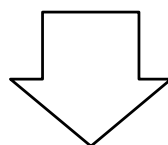
STEP4 グループ



STEP5 グループ



STEP6 全体



STEP7 個人

STEP 3 の付箋紙を貼った学習指導案を持ち寄り、拡大した学習指導案にその付箋紙を貼り付け、学習活動の流れを話し合います。

「一体的な充実」の視点で付箋紙を関連付け、貼り直したり補筆したりしながら学習活動の流れに沿って構造化します。

グループごとに演習内容を報告し、共有します。

演習を通して、学習指導案に反映させたい部分を再検討します。

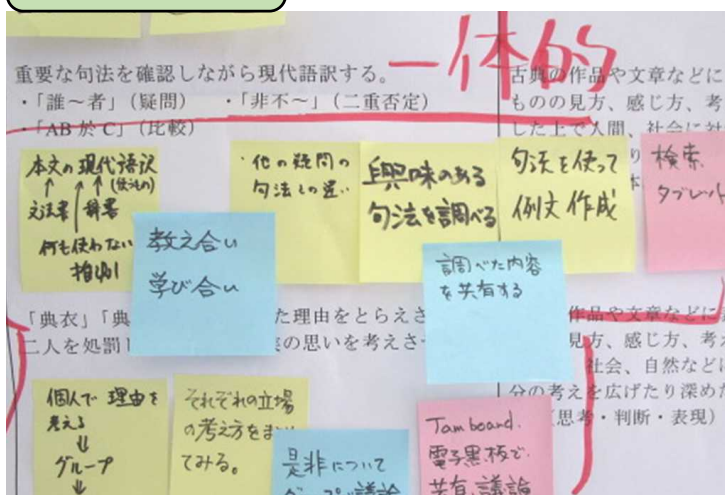
STEP4

【中学校数学科】



STEP5

【高等学校国語科】



STEP7

教師の支援【小学校算数科】

- 位取りや数の線の学習シートを用意し、自分で選択して取り組めるようにする。**個 I**
- 数の大小を判別した理由を説明できるように、文型を示す。
- 自力解決した学習シートの写真を電子黒板に映して説明させることで、それぞれの比べ方を視覚的に捉えやすくする。**I**
- 「速くて簡単な比べ方はどれか」と問うことで、百の位の数から比べるよさに気付くようにする。**協**

個 別最適な学びの視点

協 働的な学びの視点

I C T 活用の視点

演習②

単元(題材)など内容や時間のまとまりで考える授業構想

<例> 小学校第3学年 「3けたの数に1けたの数をかける計算」

STEP1
全体

単元(題材)など内容や時間のまとまりで育成する資質・能力、学習課題や、ねらいを達成した児童生徒の姿を設定します。

STEP1

単元計画例(抜粋)

8	・ 3位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について、2位数×1位数の筆算の仕方を基に考え説明することができる。	①問題場面を捉え、立式する。 ②312×3の計算の仕方を考える。 ③312×3の筆算の仕方を考える。 ④筆算の仕方をまとめる。
9	・ 3位数×1位数(部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算の仕方について、既習の乗法の筆算の仕方を基に考え説明することができる。	①386×2の筆算の仕方を考える。 ②937×4の筆算の仕方を考える。

STEP2
全体

「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の視点について確認します。

※各視点を設定する場面(資料1)とICT活用一覧表(資料2～4)を参考に設定可能な場面などを検討します。

STEP3
個人

児童生徒の思考に沿って、学習活動や教師の支援について具体的に付箋紙に記述し、単元(題材)計画や教科書のコピーに貼ります。

STEP3

教科書例(抜粋)

386×2, 937×4の筆算のしかたを説明しましょう。

筆算のしかたを考えよう。

$\begin{array}{r} 386 \\ \times 2 \\ \hline 12 \dots \square \times 2 \\ 160 \dots \square \times 2 \\ 600 \dots \square \times 2 \end{array}$	$\begin{array}{r} 937 \\ \times 4 \\ \hline 28 \dots \square \times 4 \\ 120 \dots \square \times 4 \\ 3600 \dots \square \times 4 \end{array}$
--	---

?

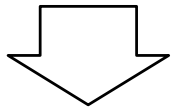
くり上がりはどうすればいいかな。

STEP4



STEP4 グループ

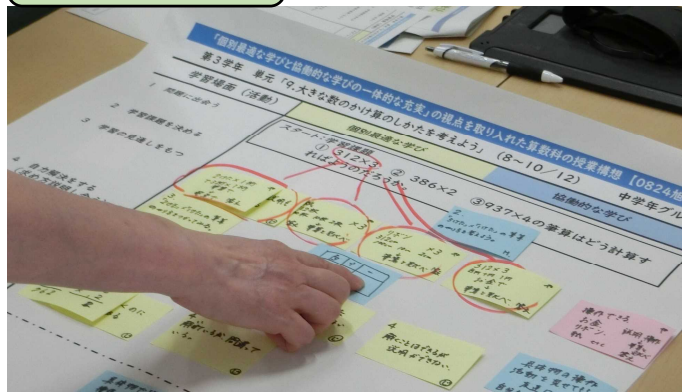
STEP 3 で付箋紙を貼った
単元（題材）計画などを
持ち寄り、演習シートに
その付箋紙を貼り付け、
学習活動の流れを話し合
います。



STEP5 グループ

「一体的な充実」の視点
で付箋紙を関連付け、貼
り直したり、補筆したり
しながら学習活動の流れ
に沿って構造化します。

STEP5



STEP6



STEP6 全体

グループごとに演習内容
を報告し、共有します。

STEP7



STEP7 個人

演習を通して、単元（題
材）計画に反映させたい
部分を再検討します。

8 実践プラン例の内容

実践プラン例の構成は次のとおりです。学習計画や各視点における学習活動などを掲載しています。

中学校 第2学年 社会科 単元名「東北地方」 (内容のまとまりの一部を単元とするケース)

第1時～第4時の目標 全5時間

・東北地方において、東北三大祭りの特色と交通や産業との関わりに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的・関連付いた多面的・多角的に考察し、表現する。

目標・学習課題

単元の全体計画

- 1 学習課題を設定する
- 2 学習課題に対する予想を立てる
- 3 課題の解決に向けた手立てを設定、選択する
(1時間)
- 学習計画**
- 5 他者と確認する
- 6 予想を再検証する
(3時間)
- 7 全体で確認する
- 8 単元の学習課題に対するまとめをする
- 9 単元を振り返る
(1時間)

学習課題 なぜ、東北三大祭りは、日程が重なっているのだろうか？

個・既得知識や生活経験と新たに出会った社会的事象の比較を通して学習課題を設定し、予想を立てる。
・課題の解決に向けた手立てを予想を検証する手立てを考え、選択し、調査活動の計画を立てる。

個別最適な学び

I・学習課題を設定するために諸資料等を電子黒板に映し出し比較

ICTの活用

・多様な意見を知るためweb会議ツールで、インタビューをする。
(③F)

協・検証の精度を高めるために、自身と他者の資料や検証内容を比較したり、当事者や専門家等にインタビューをしたりする。
・収録したインタビューの思考を可視化したりするために、グループ活動で授業支援アプリの共同編集機能を活用する。

協働的な学び

・議論を深めるため、プレゼンテーションソフトを活用し、互いの成果を見せ合う。
(④B)

充・学習課題を解決するための資料や手立てを取り入れる。
・学習者同士で意見を交換し、助言したりする。

一体的な充実

ねらいを達成した生徒の姿

東北地方の祭りを訪れる観光客に着目し、移動の特色と、産業の動向などを捉えて自分の考えを説明し、まとめている。

評価

移動といった物資や人々の結び付きや地域変容を

ICTの活用

に示す(②A)、(③F)等の表記は、資料2～4のICT活用一覧表に対応している。

個 は「個別最適な学び」 **協** は「協働的な学び」 **充** は「一体的な充実」

I は「ICTの活用」をそれぞれ示す。

小学校 第5学年 国語科 単元名「からたちの花」

第1時・第2時の目標 全2時間

・詩の表現の効果を踏まえ、作品の全体像を具体的に想像することができる。

単元全体の計画

- 1 印象に残った表現に着目し、「くり返し」の表現効果について考える (1時間)
- 2 「くり返し」の表現効果を共有し、詩全体のイメージを捉える (1時間)

学習課題

表現のとくちょうから、どんな詩のイメージをもつことができるだろう。

個 ・表現の特徴を捉えるため、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して「くり返し」の表現に着目し、自分で追究したい表現を選択する。
・表現の効果を考えるために、「くり返し」のない表現や別の表現との差異を比較する。

I ・情景をイメージするため、からたちの花や垣根などの画像検索や挿絵を検索する。(③A)
・詩を1人1台端末に配信し、くり返しの表現にマーキングする。(④B)
・グループの考えを電子黒板に投影し、全体で共有する。(⑤C)

協 ・同じ表現を選択したグループ内で表現の効果を吟味し、考えを修正、補強する。
・全てのグループの考えを共有し、複数箇所の「くり返し」の表現の効果を関連付けながら、詩全体のイメージをまとめる。

充 ・個の考えを基に、グループ内やグループ間で追究した表現の効果や内容の解釈とを吟味することで思考を広げたり深めたりし、個々の表現の効果を関連付けながら詩全体のイメージをまとめていく。

ねらいを達成した児童の姿
「くり返し」の表現の効果を踏まえ、自分の解釈や各グループで話し合ったことを関連付けて詩の理解を深め、全体のイメージをまとめている。

小学校 第3学年 算数科 単元名「大きな数のかけ算のしかたを考えよう」

第7時～第9時の目標 全12時間

・数量の関係に着目し、3位数×1位数の筆算の仕方を考え、説明している。

単元全体の計画

- 1 何十、何百×1位数の計算 (2時間)
- 2 2位数×1位数の筆算の仕方 (4時間)
- 3 3位数×1位数の筆算の仕方 (2時間)
- 4 3位数×1位数の筆算の仕方の共有 (1時間)
- 5 乗法の結合法則 (1時間)
- 6 学習内容の定着と振り返り (2時間)

学習問題と課題

(1) 312×3 (2) 386×2 (3) 937×4 の筆算は、どのように計算すればよいだろうか。

個 ・2位数×1位数の筆算の仕方を基に、3位数×1位数の筆算の仕方を類推的に考え、解決の見通しをもつ。
・解決のための学習の進め方を考える。

I ・他の児童の学習の進捗状況を、電子黒板や1人1台端末で確認し、自らの問題解決の参考にする。(③B)
・筆算の仕方を説明するため、ノートの内容を画像化したり、筆算の仕方の説明動画を作成したりする。(⑤C)

「取り組む問題の順番」「学習形態」「解決のために必要な物」「筆算の仕方を説明する方法」「答えの確認の仕方」「練習問題での確認」など

協 ・問題(1)～(3)の筆算の仕方について、2位数×1位数との共通点や相違点、乗法に関する大切な考え方などを話し合う。
・問題解決の過程や結果を振り返るとともに、練習問題を解き、自らの学びを確認する。

充 ・これまで学習してきた乗法の意味や、十進法位取り記数法や乗法九九などを基に、3位数×1位数の筆算の仕方を具体物、図、数、式などを用いて表現し、確かめている。

ねらいを達成した児童の姿
数量の関係に着目し、3位数×1位数の筆算の仕方を、具体物、図、数、式などを用いて説明している。

小学校 第5学年 理科 単元名「物のとけ方」

第1時・第2時の目標 全3時間

・水に溶けた食塩の行方についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。

<p>単元全体の計画</p> <p>1 食塩が水にとける様子から問題を見だし、「見えなくなった食塩は、水の中にある」などの予想に対する解決の方法を発想する (1時間)</p> <p>2 前時に発想した方法で検証し、他の児童と結果や考えを共有して考察する (1時間)</p> <p>3 ろ過や顕微鏡による観察など、問題の解決に結び付かなかった検証結果から、規則性や新たな問題を見いだす (1時間)</p>	<p>学習問題 水にとけて見えなくなった食塩は、どこにあるのだろうか。</p> <p>個・問題を解決するための検証方法を、それぞれの予想に合わせて個人で発想し、図や文で表現する。 例)「溶かす前後の重さを比較」「水を蒸発」「ろ過」「顕微鏡で観察」「大量の食塩を入れてみる」など</p> <p>協・個で発想した検証方法が、科学的で目的に合ったものかどうかを全体で検討する。 ※自分で発想できない児童は、他の児童の方法から選択し、選択の理由を表現する活動が考えられる。</p> <p>個・個、または同じ検証方法を選択したペアなどで実験を行う。</p> <p>協・共有した複数の結果を基に、多面的に考えて結論付けるとともに、検証方法の妥当性を検討する。</p> <p>充・問題を科学的に解決する過程において、個として検証方法の発想や実験結果が得られれば、客観的でより妥当な考えをつくりだすために、協働的な学びが必然となる。協働的な学びにより考えを深めた後に、個で自身の問題解決の過程を振り返り、次の問題につなげる。</p> <p>ねらいを達成した児童の姿 水に溶けた食塩の行方について追求する中で、予想や仮説を基に、科学的な解決の方法を発想し、図や文で表現している。</p>
---	---

I・他の児童が検討できるように、個で発想した検証方法を共有する。(④A)

I・それぞれが行った検証結果を個の考察に生かすために、実験などの様子を記録し、共有する。(⑤A)

小学校 第3学年 音楽科 題材名「『山のポルカ』のかんじを生かして演奏しよう」

第3時の目標 全3時間

・「山のポルカ」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。

<p>題材全体の計画</p> <p>1 旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの範奏を聴く</p> <p>2 運指に気を付けて曲全体を演奏する (1時間)</p> <p>3 リズム、反復、旋律などをよりどころにして、「山のポルカ」の特徴への気づきを深める (1時間)</p> <p>4 思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けて演奏する</p> <p>5 グループごとに、表現を工夫した「山のポルカ」の演奏を発表する (1時間)</p>	<p>学習課題 「山のポルカ」のかんじをあらわすには、どんな工夫をして演奏すればよいだろうか。</p> <p>個・練習曲を使って、息の使い方やタンギングの練習をする。 ・様々なリズムパターンを使って、タンギングをはっきりさせて演奏する練習をする。 ・ソロパートや簡単に演奏できる部分を設定し、児童が自分の進度に合わせて演奏する部分を選択する。</p> <p>協・ペアやグループで互いの演奏を見合ったり、聴き合ったりしながら、息の使い方やタンギングに着目して自分の演奏を確認する。 ・「山のポルカ」のかんじが表されているかをグループ同士で評価し合い、自分の演奏を振り返る。</p> <p>充・個人で練習した演奏をペアやグループで合奏したりすることにより、表現の違いに気づき、思いや意図をもって表現を工夫する。</p> <p>ねらいを達成した児童の姿 旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて、表現を工夫しながら演奏している。</p>
--	---

I・電子黒板に運指表を映して、指と音との一致を視覚的に捉える。(⑥A)

・演奏の様子を動画で撮影し、グループで改善点を見いだす。(④G)

・ポルカの踊りの動画を鑑賞して、「山のポルカ」のかんじをイメージする。(④)A

中学校 第2学年 社会科 単元名「東北地方」(内容のまとまりの一部を単元とするケース)

第1時～第4時の目標 全5時間

・東北地方において、東北三大祭りの日程が重なっている理由を、祭りと交通や産業との関わりに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

単元の全体計画

- 1 学習課題を設定する
- 2 学習課題に対する予想を立てる
- 3 課題の解決に向けた手立てを設定、選択する (1時間)
- 4 予想を検証する
- 5 他者と確認する
- 6 予想を再検証する (3時間)
- 7 全体で確認する
- 8 単元の学習課題に対するまとめをする
- 9 単元を振り返る (1時間)

学習課題 なぜ、東北三大祭りは、日程が重なっているのだろうか。

個・既得知識や生活経験と新たに出会った社会的事象の比較を通して学習課題を設定し、予想をする。
・課題解決の見通しをもつため、個で予想を検証する手立てを考え、選択し、調査活動の計画を立てる。

協・検証の精度を高めるために、自身と他者の資料や検証内容を比較したり、当事者や専門家等にインタビューをしたりする。
・収集した情報を整理、分析したり、他者の思考を可視化したりするために、グループ活動で授業支援アプリの共同編集機能を活用する。

充・学習課題を解決するための資料や手立ての共有に向けて、他者を参考にして取り入れたり、自分の検証方法を基に他者に助言したりする。

I・学習課題を設定するために諸資料等を電子黒板に映し出し比較する。(②A)

・多様な意見を知るためweb会議ツールで、インタビューをする。(③F)

・議論を深めるため、プレゼンテーションソフトを活用し、互いの成果を見せ合う。(④B)

ねらいを達成した生徒の姿

東北地方の祭りを訪れる観光客に着目し、観光地の成立と観光客の移動といった物資や人々の移動の特色と、産業の動向などを関連付けて課題を追究し、地域間の結び付きや地域変容を捉えて自分の考えを説明し、まとめている。

中学校 第3学年 英語科 単元名 Stage Activity 2 Discover Japan

第2時・第3時の目標 全4時間

・秋田を知りたいと思っている初来日のALTに日本の魅力を知ってもらうために、秋田特有のものについて、事実に加えて、英語で自分の経験や感想を交えて書くことができる。

【秋田can-do】Stage 4 書く「日常的な話題について、聞いたり読んだりして得た情報を基に、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。」

学習課題 ALTの先生に、秋田を気に入ってもらうために秋田の紹介文を書こう。

単元全体の計画

- 1 単元の見通し(1時間)
- 2 原稿作成 発表準備(1時間)
- 3 発表、共有(1時間)
- 4 パンフレット作成(1時間)

個・題材選定…話題にする秋田の文化を探す。
・原稿作成…未知の表現を英訳する。
・状況確認…自らの紹介文を客観的に見て、改善点を探る。

協・状況確認…互いの紹介文を見て、改善点を協議する。

観点例 ・相手に伝わるか。
・自分の困りごととは何か。
・他の生徒のよいところはどこか。
・自分のものをどのように改善できるか。

充・相手意識をもった、紹介文の構成となっているのかを適宜検証する。(紹介しているものはALTの好みに沿っているか。英文は理解してもらえるのか。等)

I・題材選定 ALTの好みに沿った秋田の文化を探す。(③F)

・原稿作成 決められた活用範囲に沿って活用する。(④D) (⑤E)

・比較・検討 他の紹介文と観点に沿って比較や検討をする。(⑤B) (⑤E) (⑤G)

ねらいを達成した生徒の姿

伝える相手であるALTの好みに沿うなど相手意識をもって、秋田特有のものを、事実に加えて、英語で自分の経験や感想を交えて書いている。

中学校 第2学年 美術科 題材名「レオナルドとその時代」

第1時・第2時の目標 全2時間

・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについてを考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

題材全体の計画

- 1 レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「最後の晩餐」を鑑賞し、作品に対する自分の考えをもつ (1時間)
- 2 作品に対する感じ方や考えを生徒同士で交流し、課題についてまとめる (1時間)

学習課題

レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画が芸術の傑作と言われるのはなぜだろうか。

個 ・形や色彩、明暗などに視点を当て、造形的なよさや美しさなどを感覚的に感じ取る。
 ・課題を解決するために、自分が追究したい視点で詳しく調べることを通して、作品のよさを深く感じ取る。
 <鑑賞の視点の例>
 形や色彩、作品の構成、表現技法
 作者の内面や生き方
 作者が生きた時代の文化的な背景 など

I ・インターネットを活用して作者や作品についての情報を集める。(③F)
 ・1人1台端末に保存した作品の画像を提示しながら、感じたことや考えたことを説明する。(④B)
 ・付箋紙機能を活用し、グループでの話合いの内容を整理したり全体で共有したりする。(⑤E)

充 ・一人一人の興味・関心に応じた個の活動を通して、生徒自身が作品に対する価値を明確にもてるようにする。
 ・生徒同士で自分の感じたことや作品についての考えを根拠を明らかにして述べたり批評したりしながら自分の気付かなかった作品のよさを発見できるようにする。

ねらいを達成した生徒の姿
 レオナルドやルネサンスの美術の造形的なよさを感じ取り、新たな創造を目指したレオナルドの表現の意図と工夫などについて関連付けて捉え、自分なりの根拠をもって考えを学習シートにまとめている。

中学校 第1学年 保健体育科 単元名「柔道」

第4時・第5時の目標 全9時間

・相手の動きに応じた基本動作を用いて、簡易な攻防の中で相手を抑え込むことができる。

単元の学習計画

- 1 学習の見通しをもつ (1時間)
- 2 基本動作と受け身を習得する (2時間)
- 3 固め技の動きのポイントの整理と学習の進め方を考え、ペアで練習をする (1時間)
- 4 課題解決に向けグループで練習する (1時間)
- 5 投げ技を習得する (3時間)
- 6 まとめをして、学習を振り返る (1時間)

学習課題

固め技で相手を逃がさないようにするためには、どのような工夫をしたらよいただろうか。

個 ・固め技の形や手足の動きなどのポイントを整理する。
 ・固め技の練習の仕方や技の確認など、学習の進め方を考える。

I ・固め技を実際の映像で確認する。(①A)(②A)
 ・タブレット端末で、生徒が実際に固め技をかけている姿を撮り、グループで意見を共有する。(④D)
 ・付箋紙機能を使い、グループで出された意見を全体で共有し、ポイントを整理する。(②A)(②C)

協 ・技のかけ手と受け手の二つの視点でよかった点や改善点を伝え合い、練習に生かす。
 ・全体で考えを共有し、「する・見る・支える・知る」などの多様な関わりを通して、より多くの視点や気付きから個人の課題を捉え直す。

充 ・個の考えを基に、ペアやグループで追求した技術を生かし、実践形式に近い活動に挑戦することで、実感を伴う深い気付きにつなげられるようにする。また、付箋紙機能を使い、他のグループの考えを共有することで、視点や考えの幅を広げられるようにする。

ねらいを達成した生徒の姿
 相手の動きに応じて、体をさばいたり移動させたりしながら、抑え込みの三条件を満たして、相手を抑え込んでいる。

高等学校 第1学年 国語科 言語文化

単元名 「古典の和歌を現代の言葉で書き換えよう！」

第3時・第4時の目標 全5時間

・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、自分の考えをもつことができる。

単元全体の計画

1 万葉集、古今和歌集、
新古今和歌集の解釈
(2時間)

(1)古典の和歌を現代の
言葉に書き換えよう

(1時間)

(2)古典の和歌を現代の
言葉に書き換えよう

(1時間)

2 発表、共有、振り返り
(1時間)

学習課題

古典の和歌を、どのように現代の言葉で書き換えたらいだろう。

個・学習する古典の和歌の中から1首を選択し、できるだけ歌意が同じになるように、現代の言葉で三十一文字に書き換える。
・学習場所は、教室や図書館など、自分で選択する。

協・同じ和歌を選択した生徒をグループにする。
・工夫した点などを含めて、書き換えた和歌を紹介し合う。
・解釈や言葉の使い方の違いなど、自分の考えが深まったり広がりたりした点については、メモをする。
・グループでの話し合いを受けて、書き換えた和歌を推敲し完成させる。

充・個人で書き換えた和歌をグループで話し合うことにより、解釈や言葉の使い方などの違いに気づき、推敲することでより考えが深まるようにする。

I・調べ学習の際は、1人1台端末などを使用する。(③F)
・発表の際は、書き換えた和歌を効果的に伝えるために、プレゼンテーションソフトを活用する。(⑤E)

ねらいを達成した生徒の姿
既習の和歌の歌意を踏まえ、グループでの話し合いを通して、現代の言葉で自分なりの三十一文字を作成している。

高等学校 数学科 数学B 第3章「数列」第3節「漸化式と数学的帰納法」

第1時・第2時の目標 全5時間

・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりできるようになる。

第3節の計画

1 漸化式(基本解法)
(1時間)

2 漸化式(演習)
(1時間)

3 漸化式(特性方程式)
(1時間)

4 漸化式と図形
(1時間)

5 課題学習
(1時間)

学習問題と課題

ハノイの塔を完成させる最短の操作回数を表す漸化式をつくるには？

個・ハノイの塔のモデルを用いて実験を行う。
・円盤の枚数を変えながら、 n 番目付近での円盤の動きに着目し、数列の考えを問題解決に活用する。
・見いだした関係を数学的に表現する。他者への説明を前提に、プレゼンテーションを作成する。
・小中学校で学んだ規則性など、既習とのつながりを確認する。

協・事象の再帰的な関係について、意見を交換する。
・見付け出した数学的な性質から漸化式をつくるために着目した点などについて、意見を交換する。
・他者の見付けた再帰的な関係から、自らが見付けた再帰的な関係を多面的に考察する。

充・学習形態の選択や電子黒板・タブレットの活用により、「個別最適な学び」において、他者と関わりながら学習を進める。
・事象における再帰的な関係を漸化式で表すことを通して、漸化式の有用性や一般項を求める意味を理解する。
・数理的なゲームやパズルの中に数学的な要素を見だし、数学と文化の人間との関わりについての認識を深める。

I・試行錯誤をさせる際に、円盤操作のシミュレーションで活用する。(②A)
・他者と意見を交換する際に、漸化式を図や表、式で表したり、動画を作成したりする。(⑤C)

ねらいを達成した生徒の姿
事象の再帰的な関係を見だし、その関係を他者に説明できたり、数列の一般項を求めたりすることができる。

高等学校 理科 生物基礎 単元名「神経系と内分泌系による調節」

第10時の目標 全11時間

・糖尿病患者の血糖濃度が高いままである要因を、資料から見いだして表現する。

単元全体の計画

- 1 運動と心拍数の変化との関係性を見だし表現する (2時間)
- 2 交感神経と副交感神経の働きについて理解する (1時間)
- 3 内分泌系が働く仕組みについて理解する (1時間)
- 4 フィードバック調節について理解する (2時間)
- 5 血糖濃度の調節とホルモンの働きとの関係性を見だして表現する (2時間)
- 6 血糖濃度が上昇したときの調節の仕組みについて理解する (1時間)
- 7 糖尿病患者の血糖濃度が高いままである要因を、見いだして表現する (1時間)
- 8 確認テストを行う (1時間)

学習課題

なぜ、糖尿病患者の血糖濃度は、高いままで下がらないのだろうか。原因として考えられることをいくつか、理由を示して説明しよう。

- 個**
 - ・実験の結果を処理し、分析・解釈する。
 - ・考察・推論したことをまとめる。
 - ・資料(図)の内容を比較したり、関係付けたりしながらまとめる。
- 協**
 - ・実験の結果や資料(図)を基に自らが考察した内容について、他の生徒と確認し合う。
 - ・新たな資料(グラフ)にある複数の濃度変化を表すグラフから考察・推論した内容を、既習の内容を根拠として用い、他の生徒に説明する。
- 充**
 - ・他の生徒と確認し合った後に再度個人で取り組み、新たな疑問の解決方法を確認するなど、次の学習の見通しをもつ。
 - ・個人での取組と他の生徒との協議等を交互に実施し、科学的な根拠に基づいて考察し、理由を示して表現する力を養う。
- I**
 - ・電子黒板に個々のまとめを映し、問題解決の参考にできるようにする。(③B)
 - ・説明する際に、電子黒板に根拠を提示する。(④G)
 - ・根拠をスライドやワークシートに記入する。(⑤C)

ねらいを達成した生徒の姿

糖尿病患者の血糖濃度が高いままである要因について、資料から読みとったことを根拠として示しながら、科学的に考察した内容を表現している。

高等学校 第2学年 家庭科 単元名「経済的に自立した人生を送るために」

第1時の目標 全15時間

本時の学習計画

- 1 「経済的に自立する」とはどのようなことか、現時点の自分の考えを記入する
- 2 単元を貫く学習課題と、本時の目標を確認する
- 3 事例を読み、Aさんの選択に対する自分の意見を記入する
- 4 判断する際に疑問に感じた点などについてICT等を用いて調べ、プレゼンテーションソフトを用いてまとめる
- 5 調べたことを踏まえて、事例について再検討し、Aさんへの根拠を明確にしたアドバイスとなるよう、自分の考えをまとめ、全体で共有する
- 6 「経済的な自立」に向けた自己の課題を考え、まとめる

本時のねらい

経済的自立に向けた自己の課題を考え、まとめることができる。

- 個**
 - ・Aさんの消費行動や家計管理等に係る判断に対するアドバイスを考える。
 - ・感情論ではなく、根拠のある適切なアドバイスとなるよう、事例内の疑問点等を調べる。
 - ・調べる方法や、内容、誰と調べるか等を生徒自身が選択する。
 - ・事例の問題点について、将来のライフスタイルと照らし合わせて、その解決方法を考えたり、実際の生活や地域社会で生かす場面を想定したりしながら、生徒自身の課題を見いだす。
- 協**
 - ・退職金や引っ越し費用、家計管理など、どのような点に着目したか、また調べた結果何が分かったか、Aさんにどのようなアドバイスをするかなどを紹介し合う。
 - ・他者の発表から得た新たな気付きを踏まえ、経済的な自立に必要なことを再考する。
- 充**
 - ・個々の調べ学習と、他者との情報共有を通じて、「経済的に自立すること」について、考えを深めたり、生徒自身の問題を見いだしたりする。
 - ・「経済的に自立すること」について生徒自身の問題と関連させて考えることで、学ぶ意義を認識するとともに、単元を通じた学習の見通しをもつ。
- I**
 - ・自身の考えを裏付けるための情報を得る手段として1人1台端末を活用する。(③F)
 - ・調べた内容を、他者と共有するため、プレゼンテーションソフトを活用し、まとめる。(③E)
 - ・作成した資料は、ポートフォリオとして、単元を貫く学習課題に対する自身の考えを深め、整理するために活用する。(⑤C)

ねらいを達成した生徒の姿

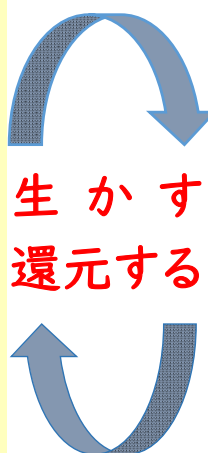
「経済的に自立すること」について、高校卒業後のライフスタイルや生涯設計と関連付けて考え、単元を通じてどのような力を身に付ける必要があるかをまとめている。

各視点を設定する場面例

演習で用いた付箋紙の記述を整理・分析し、個別最適な学びと協働的な学び、それぞれを設定できる場面例を、次のように整理しました。

個別最適な学びの視点

- ① 既習の学習内容を確認する場面
- ② 学習課題やめあてを設定する場面
- ③ 情報を収集する場面
- ④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面
- ⑤ まとめや振り返りをする場面
- ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面



協働的な学びの視点

- A 交流・共有する場面
- B 協議・討論する場面
- C 整理やまとめをする場面
- D 制作（製作）・表現・実践する場面
- E 発表する場面
- F 教室の枠を越えた学びをする場面
- G 相互評価をする場面

一体的な充実

これらの場면을、授業のねらいに応じて組み合わせ、単元（題材）や授業を構想することにより、一体的な充実が図られていきます。

ICT活用一覽表

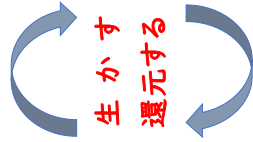
【ICT活用一覽表の見方】

く例>

①Aは、①「既習の学習内容を確認する」際に、その学習の成果をA「交流や共有する」活動に生かしたり、さらにその学習の成果を①「既習の学習内容を確認する」活動に還元したりするなど、①とAが往還する学習における活用例（方法）を示す。

個別最適な学びの視点

- ① 既習の学習内容を確認する場面
- ② 学習課題やめあてを設定する場面
- ③ 情報を収集する場面
- ④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面
- ⑤ めあてや振り返りをする場面
- ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面



協働的な学びの視点

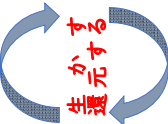


- A 交流・共有する場面
- B 協議・討論する場面
- C 整理やまとめをする場面
- D 制作（製作）・表現・実践する場面
- E 発表する場面
- F 教室の枠を越えた学びをする場面
- G 相互評価をする場面

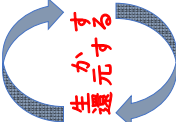
個別最適な学びの視点

協働的な学びの視点

一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例

- | | | |
|---|---|---|
| ① | A | <ul style="list-style-type: none"> ○既習の学習内容を確認するために、資料やファイルを電子黒板（スクリーン）に投影したり、タブレット端末に配信したりする。 ○学習履歴を確認するために、クラウド上のフォルダから自由に閲覧できるようにして、必要な資料やファイルを引き出す。 |
| ② | B | ○答えの求め方について確認するために、共同編集機能等で効率的な答えの求め方を協議する。 |
| | E | ○既習の学習内容を共有するために、発表者の資料やファイルを電子黒板（スクリーン）に投影する。 |
| | A | <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を設定するために、着目させたい資料や教材をタブレット端末へ配信する。 ○個々の立場を可視化したり意思表示したりするために、学習支援ソフトの位置付け（ポジショニング）機能を活用する。 ○全員が多様な資料を閲覧、共有できるように、授業支援アプリケーションの保存機能を活用する。 ○諸資料、作品、動画等を電子黒板（スクリーン）に映し、気付いたことを比較・共有するために、電子付箋紙機能を活用する。 |
| | B | ○新たな問いを引き出すために、前時の振り返りやまとめの記述を画面上で共有し、相違点や共通点を見いだす。 |
| | C | ○学級全体の傾向を見るために、投票機能を使って円グラフや棒グラフで統計を表す。 |
| | D | ○多種多様な考えや疑問等を整理するために、電子付箋紙機能を活用し、色分けしてグルーピングする。 |
| | E | ○自分の学習課題を整理するために、各自が設定した学習課題を、電子黒板（スクリーン）や学習支援ソフトで共有する。 |
| | D | ○学習内容の定着を図るために、教材・教具を使用する際、その使い方の動画をタブレット端末を用いて視聴する。 |
| | E | ○学習課題やめあてを全体で確認するために、設定の理由についてプレゼンテーションにまとめる。 |

個別最適な学びの視点		協働的な学びの視点	
① 既習の学習内容を確認する場面 ② 学習課題やめあてを設定する場面 ③ 情報を収集する場面	④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面 ⑤ まとめて振り返りをする場面 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面	 還元する 先か	A 交流・共有する場面 E 発表する場面 B 協議、討論する場面 F 教室の枠を越えた学びをする場面 C 整理やまとめをする場面 G 相互評価をする場面 D 制作(製作)・表現・実践する場面
一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例			
③		A	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な資料を収集し共有するために、インターネットを活用して調査したり、タブレット端末を活用して撮影したりする。 ○多様な思考を導き出すために、観察、実験、体験活動、個別のグループ活動等の様子をタブレット端末で撮影し、共有する。 ○活発な言語活動を目指して必要なアイデアを共有するために、電子付箋紙機能を活用する。
		B	<ul style="list-style-type: none"> ○共通点や相違点等と比較・検討するために、学習支援ソフト内の自由に他者のタブレット端末の画面を閲覧できる機能を活用する。 ○児童生徒間の自由交流のための情報を提供するために、電子黒板(スクリーン)に全員の考え方をリアルタイムで映す。 ○詳細な情報を基に協議や議論を深めるために、タブレット端末やデジタルカメラで撮影したものを資料として提示する。
		C	<ul style="list-style-type: none"> ○リアルタイムで情報を収集し整理するために、教室で活動する人と学校外で調査活動をしている人をWeb会議ツールでつなぐ。 ○授業の見通しをもつために、問題解決の手順を授業支援アプリケーションのカード機能や電子付箋紙機能を活用してまとめる。 ○定点観察や対象物の変容調査のために、動画やコマ送り動画機能で記録する。
		E	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な分かりやすさで情報共有・収集するために、電子黒板(スクリーン)や1人1台端末の画面に書き込みながら発表する。 ○グループ活動において他者の思考を可視化するために、調査内容を共同編集機能を活用して発表する。
		F	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に必要な情報を収集するために、キーワードで検索をかけたり、関連するホームページにアクセスしたりする。 ○多面的・多角的な考えや意見を知るために、Web会議ツールで当事者や専門家等にインタビューをする。
		A	<ul style="list-style-type: none"> ○着目した点や考えの根拠を示すため、タブレット端末のデジタル教科書にマーキングしたり、書き込んだりする。 ○他者の発想や検証・方法、学び方を取り入れ、課題解決の見通しをもつために、電子黒板(スクリーン)で共有する。 ○個で調べた内容を、グループで共有するために、文章作成機能を活用して調べた内容をまとめ、紹介し合う。
④		B	<ul style="list-style-type: none"> ○複数ある考えを比較・検討するため、電子付箋紙機能を活用し、提示された意見を話合いに沿って移動したり色分けしたりする。 ○よかった点や改善点について話し合うために、体験学習の様子を録画し、動画の繰り返し再生機能を活用する。 ○課題解決に向けた建設的な話合いとなるように、作成したプレゼンテーション資料を基に互いの成果を紹介し合う。 ○多様な考えを共有するため、同じ課題を設定した教室外(他のクラス等)の生徒と、Web会議ツールで協議する。
		C	<ul style="list-style-type: none"> ○協議や討論を受け、取り扱った情報を整理するために、電子付箋紙機能を使って分類する。 ○思考を可視化するために、デジタル思考ツールを活用する。
		D	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを分かりやすく伝えるために、タブレット端末を活用し、写真や資料に自由に書き込む。 ○課題解決につながる多様な意見をまとめるために、共同編集機能を活用し、個の意見を同時に入力して整理する。 ○発想・構想のきっかけとすするために、個やグループの学習活動をタブレット端末やデジタルカメラ等で撮影し確認する。
		F	<ul style="list-style-type: none"> ○解決方法を見通したり、解決方法のヒントを得たりするため、外部講師とオンラインでつながる。 ○課題解決のために、Web会議ツールを活用して、外部の人と対話する。 ○解決に向けた手立てを確認するために、類題を解説した動画を視聴する。
		G	<ul style="list-style-type: none"> ○他者と意見と比較するために、児童生徒の思考過程を記録したものをタブレット端末を活用して画像として残す。 ○児童生徒の学習改善に生かすために、撮影したものを電子黒板(スクリーン)に映し出し、全体で共有する。 ○互いの発表等の改善点を見つけ出すために、互いのやり取りや発表の様子を録画する。(個人内評価としても活用する。)

個別最適な学びの視点		協働的な学びの視点	
① 既習の学習内容を確認する場面 ② 学習課題やめあてを設定する場面 ③ 情報を収集する場面	④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面 ⑤ まとめや振り返りをする場面 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面	A 交流・共有する場面 B 協議・討論する場面 C 整理・まとめをする場面 D 制作(製作)・表現・実践する場面	E 発表する場面 F 教室の枠を越えた学びをする場面 G 相互評価をする場面
⑤	⑥	 <p>生 元 か す 遠 す</p>	
個別最適な学びの視点	協働的な学びの視点	<p>一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例</p> <p>○まとめ、振り返りを全体で共有するために、個々で記録したまとめ、振り返りをタブレット端末で撮影し、電子黒板(スクリーン)に映す。 ○多数の児童生徒の考え方について比較・検討するために、電子付箋紙機能を活用し、個の考えや解法を記入して送信し合う。</p> <p>○学習を整理して調整するため、話し合い等のグループワークを録画した動画を再生する。 ○比較・検討した内容を協議につなげるために、学習支援ソフトの位置付け(ポジショニング)機能で、意思表示した結果を利用する。</p> <p>○多様な意見を整理するため、タブレット端末の共同編集機能を活用したり、ノートにまとめた意見を撮影した画像を蓄積したりする。 ○振り返りを丁寧に丁寧に見取ったり、次時の学習活動につなげたりするために、タブレット端末の電子付箋紙機能や学習支援ソフトのアンケート機能を活用して振り返りを入力したり、データ蓄積したりする。 ○まとめを全体で振り返るために、毎時間のまとめを学習支援ソフトに蓄積し、単元の終末部で一覧にして電子黒板(スクリーン)に提示する。</p> <p>○単元のまとめをするために、学習課題に対する答えやテーマについて探究した結果を、文章とあわせて写真や動画を編集してまとめる。 ○単元のまとめをするために、タブレット端末の文章作成ツールを活用してレポートを作成する。</p> <p>○調べた内容や考えた結果を伝えるために、プレゼンテーションソフトを活用してまとめる。 ○他者の多様な意見を引き出すために、プレゼンテーションソフトを活用して発表し、質疑応答をする。 ○個の考えを見直したり、深めたりするために、他者のまとめを電子黒板(スクリーン)で共有したり、実物投影机で拡大したりする。</p> <p>○個々の発表に対する価値付けをするために、感想や意見を画面上に書き込んだり、スタンプを付けて評価したりする。 ○発表に対する相互評価を行うために、学習支援ソフトのアンケート機能を活用して、投票結果を集計ソフトで表示する。 ○共通点や相違点に気付くようにするために、個々のまとめを電子黒板(スクリーン)に映し出して比較する。 ○学習課題に対する予想と結果(まとめ)の変容を見取るために、電子付箋紙機能を活用して比較する。 ○児童生徒が授業中に変容した自身の考えを自覚できるようにするために、学習支援ソフトの位置付け(ポジショニング)機能を活用する。</p> <p>○個の考えを深めたり、表現力を高めたりするために、他校の児童生徒や専門家、海外のゲストティーチャー等とオンライン交流をする。</p> <p>○個の補充的・発展的な学習や体験活動の結果を共有するために、タブレット端末で撮影したり、学習支援ソフトでデータを蓄積したりする。</p> <p>○発展的な課題に挑戦するために、学習支援ソフトで、問題の難易度を選択して取り組むことができるようにする。 ○単元を貫く学習課題に対する個の考えを深め整理するために、学習支援ソフトでポートフォリオのように調査内容をデータとして蓄積する。 ○個の表現活動や技能の正確さを全体で確認するために、タブレット端末で撮影・録音し、学習支援ソフトを活用して採点する。 ○精読のため、文章を投影して言語材料等を確認する。(または動画コンテンツとして、オンデマンド方式で閲覧できる環境を整える。)</p> <p>○本時の学びを深めたり、個の理解度に合わせて学習内容の定着を図ったりするために、課題の配信や、デジタルドリルの活用を進める。 ○校外学習先で学んだことを視覚的に記録するために、タブレット端末を活用して写真や動画を撮影する。 ○地域の公共施設や教育機関とオンラインでつながり、担当職員や専門家に質問する。</p>	

【スタート】学習課題：

【ゴール】まとめ：

学習活動

個別最適な学び

協働的な学び

【スタート】学習課題：

【ゴール】まとめ：

学習場面 (活動)	個別最適な学び	協働的な学び	ICTの活用
-----------	---------	--------	--------

スタート:学習課題

ゴール:ねらいを達成した児童生徒の姿

学習場面 (活動)	個別最適な学び	協働的な学び
-----------	---------	--------

スタート:学習課題

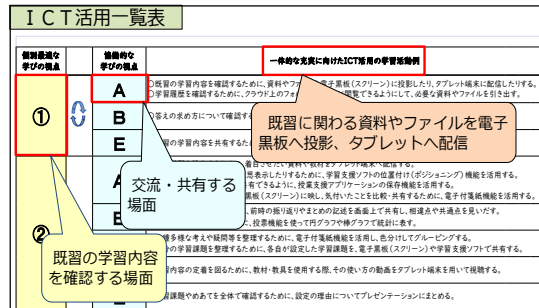
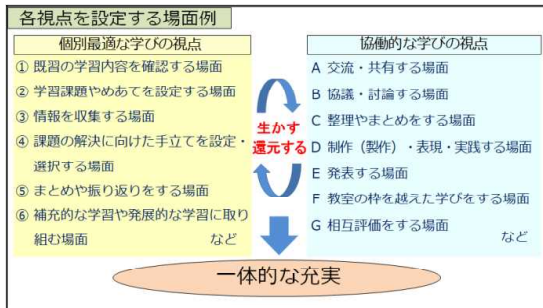
ゴール:ねらいを達成した児童生徒の姿

<引用・参考文献>

- 秋田県教育委員会(2022)『令和4年度学校教育の指針』
- 秋田県教育委員会(2023)『令和5年度学校教育の指針』
- 秋田県総合教育センター(2019)『平成30年度研究紀要 50集』
- 秋田県総合教育センター(2020)『令和元年度研究紀要 51集』
- 秋田県総合教育センター(2021)『令和2年度研究紀要 52集』
- 秋田県総合教育センター(2022)『令和3年度研究紀要 53集』
- 秋田県総合教育センター(2023)『令和4年度研究紀要 54集』
- 荒瀬克己(2021)『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』NITSオンライン講座
- 合田哲雄(2022)『教育DXの先にある学びのあり方と学校の存在意義 - これからの学校教育に求められるもの - 』(全国教育研究所連盟総会・研究発表会 講演資料)
- 中央教育審議会答申(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)
- 奈須正裕(2021)『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社.
- 奈須正裕(2022)『個別最適な学びの足場を組む。』教育開発研究所.
- 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構(2023)『第1回個別最適な学びに関する公開シンポジウム』オンライン
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房.
- 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2021)『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料』

センター研究2

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善（2年計画・2年次）



演習②
単元（題材）など内容や時間のまとまりにおける授業構想

A 講座 小学校 教職 8年目 C 講座 小学校 中学校 学校支援講座

演習 体育科「マット運動」 演習 理科「空気の温度」 演習 社会科「東北の夏祭り」

高等学校 第2学年 家庭科 単元名 「経済的に自立した人生を送るために」

第1時の目標 全15分

本時の学習活動

- 事例を読み、Aさんの選択に対する自分の意見を記入する。
- 判断する際に疑問に感じた点などについてICTを用いて調べ、プレゼンテーションにまとめる。
- 調べたことを踏まえて、事例について再検討し、Aさんへの感想を明確にしたアドバイスとなるよう、自分の考えをまとめ、全体で共有する。
- 「経済的に自立」に向けた自己の課題を考え、まとめる。

ICTの活用

- ① 自身の考えを基に「自分の課題を整理する」として「人」の情報を活用する。(3D)
- ② 「調べた内容を、他の生徒に共有する」。
- ③ 「作成した資料は、どのクラスか分けて、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを深め、整理するための活用する」。
- ④ 「作成した資料は、どのクラスか分けて、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを深め、整理するための活用する」。
- ⑤ 「作成した資料は、どのクラスか分けて、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを深め、整理するための活用する」。

一体的な充実

評価

生徒設計と関連付けて考え、

主幹(兼)班長
主任指導主事

指導主事

相馬 仁
小松田 哲也
部 谷 靖子
小 森 哉子
細 谷 林子
赤 川 嗣昭
鈴木 智美
佐藤 整
田 口 峰子
小 宅 茂子
菅 原 英明
月 居 克夫
小野寺 仁志